続　早良逍遥マップ記

―鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ―

内山　敏典

はじめに

本書は、前回（2003 年 12 月 25 日）に上梓いたしました『早良逍遥マップ記』の続編となるものです。『早良逍遥マップ記』において掲載しました史蹟名勝は貝原益軒『筑前国続風土記』、青柳種信『筑前国続風土記拾遺』、加藤一純・鷹取周成『筑前国続風土記付録』、伊藤常足『太宰管内史』および奥村玉蘭『筑前名所図会』の先人がそれぞれの書物で旧西区（早良郡で、現在の城南区、早良区および西区）について掲載なされた所在地を現在の住居表示によるマップと若干の解説をいたしました。

筆者の住む近くの早良区重留新町バス停（重留新町信号付近）から約 15,000～13,000 歩以内の距離で、東は中央区赤坂の「ふくろうの森」、西は西区の「金武の乙石」と「西市民プール」、南は早良区の「脇山の谷口」、北は早良区の「百道浜の福岡タワー」となっています。この範囲のなかに早良郡（能古島等を除く旧西区）が多くの史蹟名勝が存在しています。この史蹟名勝は太古の時代から人々の生活活動や経済活動などのための「道」すなわち近代での「街道」があり、その周辺に史蹟名勝の多くが存在していました。早良郡には「街道」等の「道」には、「旧唐津街道」、「旧三瀬街道」、「旧早良街道（板屋道）」および「太閤道」があり、現在も一部の区間を除けば存在しています。これらの街道沿いの付近には中世の城址が多く存在しています。そのうちの一つに「旧早良街道（板屋道）」付近にある荒平城があり、荒平城の落城後に「荒平くずれ」の人々が文化および産業に貢献したことを挙げることができます。とくに、『早良逍遥マップ記』では、早良で生れた明治の農業技術と西日本地方で発展してきた農業技術とが相俟って、わが国経済発展や台湾の経済発展に大きく寄与してきたことを解説いたしました。

本書は、第 1 部においては、鉄道が産業に果たした役割についてということで、早良における産業の発展に寄与してきた第 2 次産業である鉱業（石炭）、第 3 次産業である鉄道（含む軌道）について記述します。炭鉱についての詳細は第 2 部の炭鉱を参照してください。第 2 部においては、逍遥のための「旧街道」と「荒平くずれ」とかかわりのある中世の城址を記述しています。ところで、「旧街道」を提示することによって、その周辺の史蹟名勝のマップと解説が必要となります。そのようなことから前回の『早良逍遥マップ記』と一部同様のマップと解説を再掲載しています。

本書は、前回の『早良逍遥マップ記』と同様、逍遥のための「マップ」と「歩数」を提供しています。また、本書は産業の歴史的事実を確かめるために、マップに加えて統計的数値を掲載しています。読者の皆様は数値の推移等から歴史を考えていただきたく存じます。そして、表面上現れました数値の持つ意味を様々な視点から分析や考察をおこなうことにより、過去の歴史の成果と未来への手掛かりが得られますことを期待したく思います。

目　　次

はじめに

第１部　鉄道が産業に果たした役割について ---------- １頁
　1．特殊軌道の役割について ---------- ２頁
　2．旧筑肥線の役割について ---------- ９頁
　3．路面電車が果たした役割について ---------- 22 頁

第２部　旧街道とその周辺付近の城址について ---------- 29 頁
　1．旧早良街道（板屋道）について ---------- 29 頁
　2．旧三瀬街道について ---------- 30 頁
　3．太閤道について ---------- 31 頁
　4．早良逍遥マップの一部とマップに掲載の史蹟名勝の解説 ----------－ 32 頁

おわりに ---------- 78 頁

第１部　鉄道が産業に果たした役割について

明治時代の早良をはじめとする西日本地方による農業発展は、現在のわが国の経済発展と大いに関係があるといっても過言でない。農業発展（教育などの技術進歩）は多くの人口を養うための食糧生産を可能とし、さらに“余剰”をもたらすこととなった。この“余剰”が人口の増加を可能とする一方で、鉱工業の第 2 次産業やサービス産業の発展を可能とした。

サイモン・クズネッツ（Simon,Kuznetz：米、1901～85 年、1971 年にノーベル経済学賞）は近代経済成長の定義をつぎの 2 つの条件としている。すなわち、①人口が長期にわたり、過去に見られなかったような高率で継続的に増加する。②人口増加率を上回る率で国民生産物（ＧＮＰやＧＤＰのこと）が持続的に増加する。

わが国は明治以降この 2 つの条件に合致し、経済成長を遂げ物質的な“豊かさ”を手に入れてきた。また、わが国はコーリン・クラーク（Colin,Clark：英、1905～？）によるペティの法則[第 1 次産業（農林水産業）→第 2 次産業（鉱工業）→第 3 次産業（運輸・通信・流通などのサービス産業）へと、就業者数や生産額が移行する]が成り立ち、経済成長を遂げてきた。表 1 には産業別就業者数とその構成比を示している。

表 1-1.　産業別就業者数とその構成比　（単位：万人、%）

年	総数	第 1 次産業	構成比	第 2 次産業	構成比	第 3 次産業	構成比
1920(大正 9)年	2644	1444	54.61	558	21.10	642	24.28
1930(昭和 5)年	2927	1449	49.50	599	20.46	879	30.03
1940(昭和 15)年	3201	1419	44.33	842	26.30	940	29.37
1950(昭和 25)年	3559	1721	48.36	781	21.94	1057	29.70
1955(昭和 30)年	3926	1611	41.03	922	23.48	1393	35.48
1960(昭和 35)年	4368	1424	32.60	1276	29.21	1668	38.19
1965(昭和 40)年	4760	1173	24.64	1540	32.35	2047	43.00
1970(昭和 45)年	5223	1007	19.28	1783	34.14	2433	46.58
・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・
1995(平成 7)年	6371	382	6.00	2025	31.78	3964	62.22
2000(平成 12)年	6214	332	5.34	1864	30.00	4018	64.66

総務省統計局『日本統計年鑑』より作成

表 1 より、1920（大正 9）年の第 1 次産業の就業者は 1,444 万人（構成比 54.61%）、第 2 次産業のそれは 558 万人（同 21.10%）、第 3 次産業のそれは 642 万人（同 24.28%）であった。各産業の就業者数の構成比が年々ペティの法則にみるように、2000（平成 12）年

において、第 1 次産業の就業者は 332 万人（同 5.34%）、第 2 次産業のそれは 1,884 万人（同 30.00%）、第 3 次産業のそれは 4,018 万人（同 84.66%）となっている。このような各産業の就業者数の推移は各産業にそれぞれに特有の技術進歩が働いていたことや、それに伴い工業化と都市化の相互依存関係が働いていることによるものである。

早良においても、第 2 部の「マップ」と「解説」にあるように、明治時代の第 1 次産業である農業の発展と、その後、第 2 次産業である鉱業（石炭）の発展があり、鉄道や造船などのエネルギーとしての役割りを果たしてきた。早良には，時代とともに、西新炭鉱、麁原炭鉱、鳥飼炭鉱、樋井川炭鉱および姪浜炭鉱が存在していた。当時の隆盛に応じて、麁原炭鉱および鳥飼炭鉱では出炭された石炭を当時の今宿まで運搬するために、藤崎で北筑軌道に接続するための特殊軌道（引き込み線）が 1927（昭和 2）年まで存在していた。その後、姪浜炭鉱が発展し、1962（昭和 37）年まで出炭をおこない、国内外に販路を有し、エネルギー産業としての役割りを果たしていたとのことである。姪浜炭鉱で出炭された石炭は、室見川河口に桟橋が設けられ、そこから国内外へ運搬されていたとのことである。また、そこで出炭された石炭は、1962 年の閉山の頃まで、旧筑肥線の姪浜駅からの運搬も見られる。福岡県の鉄道（含：特殊軌道等）はその時代の産業等の要請に応じて多くが存在していた。とくに、炭鉱と関連のある鉄道が多く、古くは馬車軌道としてのものもあった。廃線となった鉄道はさまざまな鉄道の名称のものがあり、福岡県には約 43 区間存在していたとのことである。現存する鉄道は、福岡都市圏に限れば、西日本鉄道の大牟田線、大宰府線、甘木線および宮地岳線があり、ＪＲ九州の鹿児島本線、香椎線および筑肥線（福岡市営地下鉄と相互乗入れ）、第 3 セクターの甘木線、福岡市営地下鉄である。

早良郡に存在していた鉄道には北筑軌道、特殊軌道、旧筑肥線および西鉄路面電車であった。現存する鉄道は福岡市営地下鉄 1 号線（相互乗入れの筑肥線）および同地下鉄 3 号線（七隈線：2005 年 2 月 3 日開業予定）である。経済システムにおける産業の発展とともに、第 1 次産業から第 2 次産業へ、第 2 次産業から第 3 次産業へと就業者数や生産額の構成比（百分比）が移行していくことを前述したが、鉄道については「人」や「物」の輸送は勿論のことではあるが，まずエネルギー資源としての“石炭”輸送のための鉄道（軌道）が主流であったようである。

1.　特殊軌道の役割について

早良郡（旧西区：現城南区、早良区および西区）においては、鳥飼炭鉱から麁原炭鉱を経由し、藤崎（現：早良口）まで石炭を輸送する専用道路があり、その専用道路には特殊軌道（引込み線）が走っていたとの伝承があった。そして、藤崎から北筑軌道を通じて今宿の積出港まで運搬されていたとのことである。当時の麁原炭鉱はクワとモッコによる採炭（狸穴式）であったものが、造船で成功した山本唯三郎（やまもと　いさぶろう）が買収をおこない、それにともなってリフト（竪坑式）による採炭をおこない出炭量を増やし

ていったとのことである。

以下に示す図 1-1 は“1926（大正 15）年当時の鉄道とその付近の街道”、図 1-2 は“特殊軌道の推定図と番地”および図 1-3 は“特殊軌道の推定図の逍遥図（番地）と歩数”である。これらの図を提示した理由として、早良郡には当時どのような鉄道が存在していたか、現在の住所ではどのあたりか、逍遙するためにはどのような道を行けばよいかをそれぞれ提示するためである。図 1-2 における住所は当時の測量図と現在の測量図とを重ね合わせて作成したものであり、この住所では逍遥することができない。そのため図 1-3 の逍遥できる「住所（番地）」と「歩数」を提示している。

そして、特殊軌道跡の現在の写真風景を掲載している。この跡は現在住宅街であるので似かよった写真風景になる。そこで、それらの付近である『早良郡志』の史蹟名勝が述べられている場所の撮影しそれらの写真を掲載している。

福岡市役所『福岡市史第 2 巻大正編』1963 年 10 月.733～743 頁.

大日本帝国陸地測量部『大正 15 年測量　福岡西南部』1929 年 10 月.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.190 頁.

伊藤尾四郎編『福岡県史資料　別輯』1973 年 10 月.16～17 頁.

http://www.asahi-net.or.jp/~yc4k-hrd/abolish.htm

図 1-1.　1926（大正 15）年当時の鉄道とその付近の街道

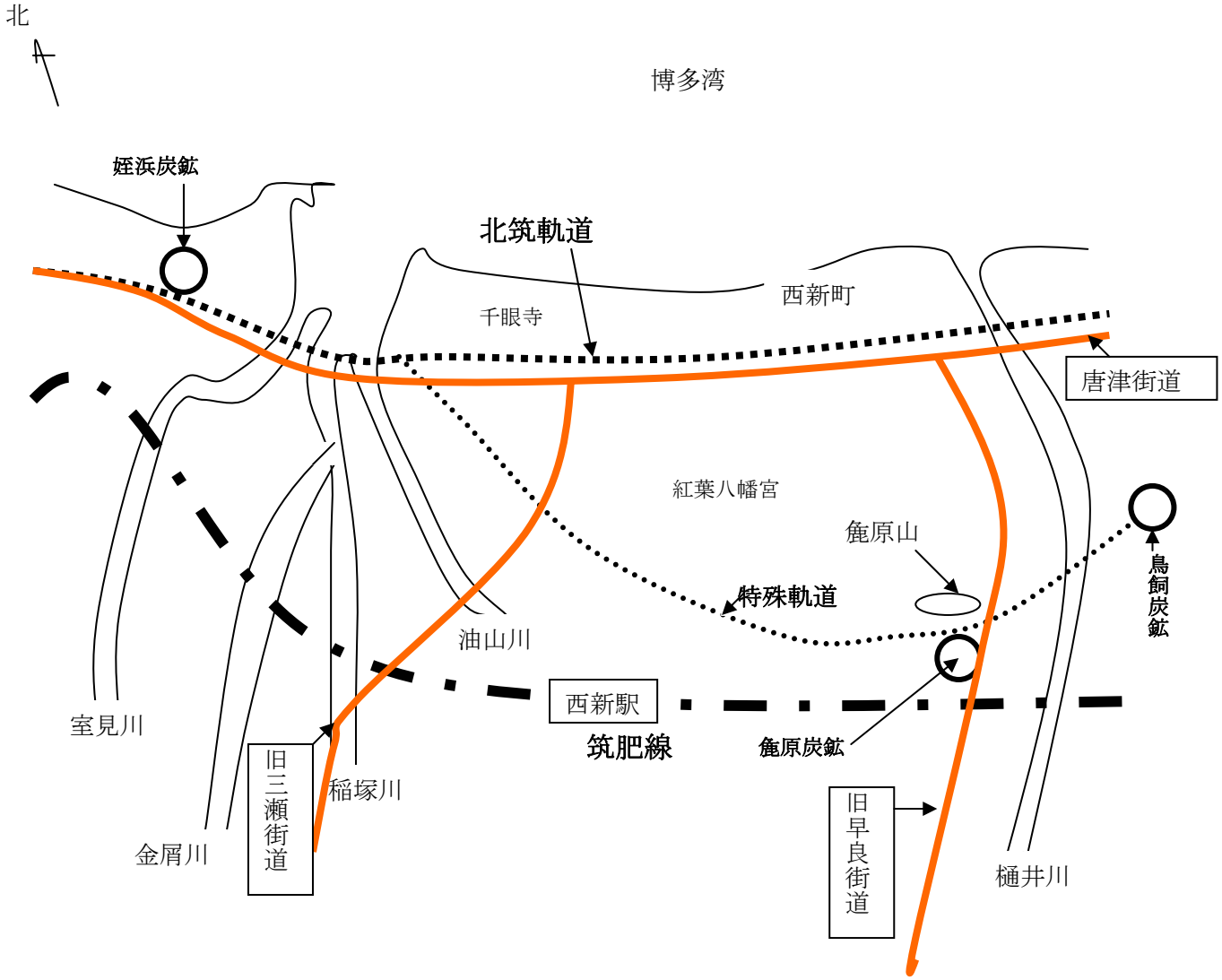
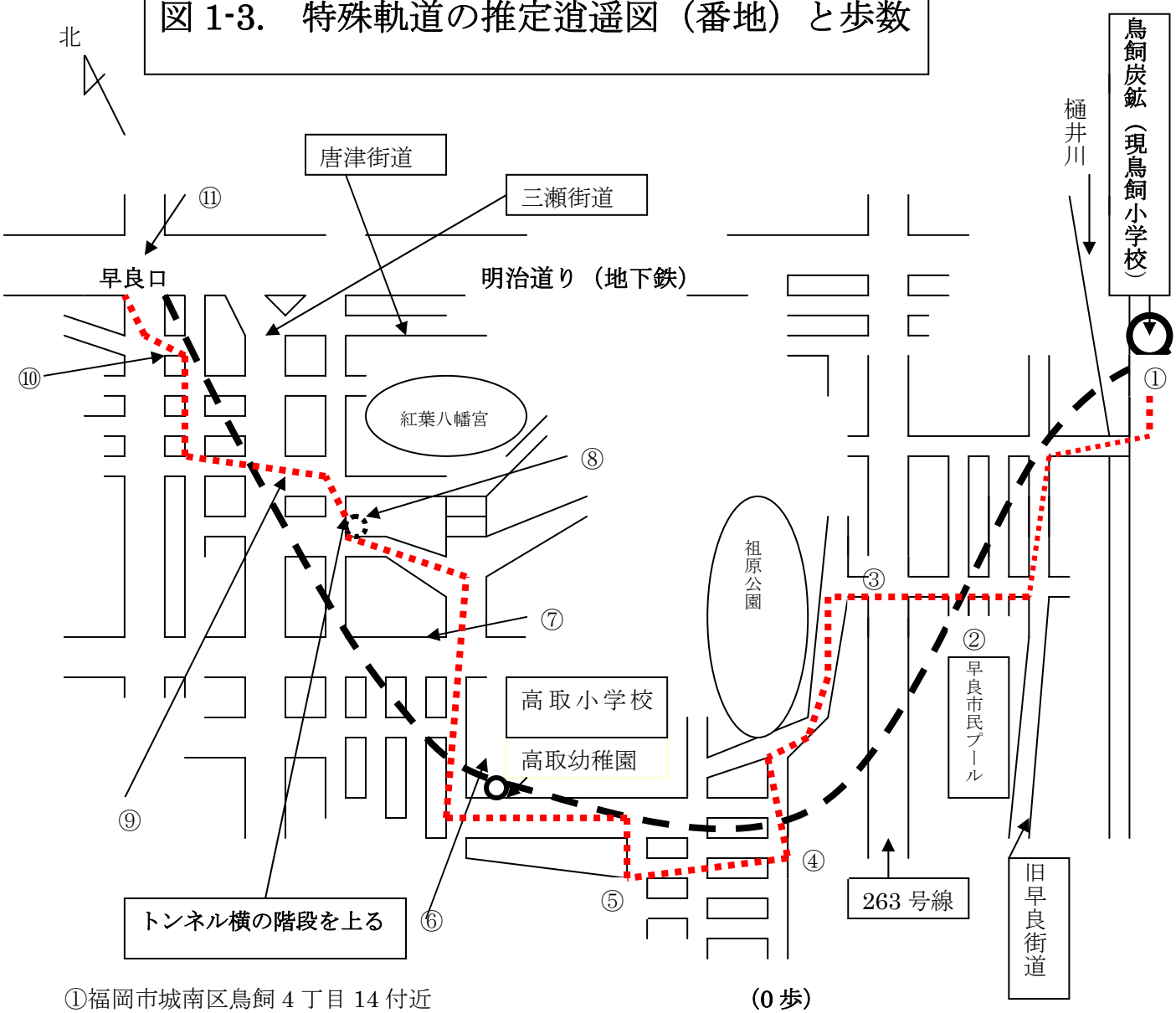


図 1-2.　特殊軌道の推定図と番地

① 福岡市城南区鳥飼 4 丁目 14 付近
② 福岡市早良区城西 2 丁目 5－26 付近
③ 福岡市早良区曙 1 丁目 2－18 付近
④ 福岡市早良区昭代 1 丁目 13－1 付近
⑤ 福岡市早良区昭代 1 丁目 12－10 付近
⑥ 福岡市早良区昭代 2 丁目 13－13 付近
⑦ 福岡市早良区昭代 3 丁目 4－25 付近
⑧ 福岡市早良区高取 2 丁目 9－24 付近
⑨ 福岡市早良区高取 2 丁目 7－13 付近
⑩ 福岡市早良区藤崎 1 丁目 24－5 付近
⑪ 早良口交差点付近

図 1-3.　特殊軌道の推定逍遥図（番地）と歩数



①福岡市城南区鳥飼 4 丁目 14 付近　　(0 歩)
②福岡市早良区曙 1 丁目 3（市立早良市民プール前）
③祖原公園東口信号　　(1326 歩)
④福岡市早良区昭代 1 丁目 10
⑤福岡市早良区昭代 1 丁目 12－10　　(1814 歩)
⑥福岡市早良区昭代 2 丁目 12－1（高取幼稚園西側）　　(2208 歩)
⑦福岡市早良区高取 1 丁目 21－3
⑧福岡市早良区高取 1 丁目 22－17（トンネル横の階段を上る）
⑨福岡市早良区高取 2 丁目 15－9　　(3265 歩)
⑩福岡市早良区藤崎 1 丁目 23－15
⑪早良口　　(3908 歩)

特殊軌道跡の現在の写真

鳥飼小学校西側

祖原山の元寇戦跡の碑：この山の南側

紅葉八幡宮の南側付近

早良区高取２丁目の紅葉八幡宮の西側

藤崎早良口の一里塚：北筑軌道と引込線との接続付近とみられる場所

藤崎の飛石橋：北筑軌道と引込線との接続付近とみられる場所

2.　旧筑肥線の役割について

図 1-1 で示しているように、旧筑肥線は特殊軌道と別に存在していた。旧筑肥線が早良郡に開通したのは、1925（大正 15）年 6 月 15 日で、その当時は北九州鉄道株式会社の経営であった。国鉄が 1937（昭和 12）年 10 月 1 日に北九州鉄道株式会社の博多～伊万里間を買収し、国有化された筑肥線として運輸営業を開始している。しかし、1983（昭和 58）年 3 月 22 日に、福岡市営地下鉄開業により、博多～姪浜間が廃止されている。旧筑肥線に関する年表が表 2-1 の“旧筑肥線（含：博多駅周辺）関連年表”である。ところで、旧筑肥線で有名な出来事は、1928（昭和 3）年 11 月の昭和天皇即位の大礼のために献上米を西新駅から新造列車で京都に輸送されたことであった。また、旧筑肥線は、自動車の普及と道路整備が未発達な時代において、とくに福岡近郊や唐津方面からの農水産物を福岡都市圏へ運ぶための生活列車としての役割を果たしていた。旧筑肥線沿線で、とくに当時の博多駅および箕島駅周辺には工場が多く存在していたとともに、博多駅および筑前高宮駅は通勤・通学の乗換駅としての役割をも果たしていた。また、小笹駅の北東には福岡市営動物園があり、乗客輸送は路面電車とともに旧筑肥線が果たした役割も大きかったようである。

旧筑肥線は現在の博多駅が誕生する 1963（昭和 38）年まで、現在の博多区博多駅前 1 丁目 5 付近の祇園町バス停付近に駅舎があった。その周辺のみのマップを示したのが図 2-1 の“現在の地図による旧博多駅図”と図 2-2 の“旧博多駅図“である。そこには旧博多駅からの旧筑肥線跡すなわち旧博多駅から筑前箕島駅跡までの距離数と歩数、西鉄路面電車跡を示している。

また、図 2-3 は“昭和 56（1981）年当時の筑肥線と他の鉄道線”を示しているが、そこには旧筑肥線の博多駅から姪浜駅まで、各駅間それぞれの歩数、歩数時間、乗用車による距離数およびそれらの累積の数値を示している。1977（昭和 52）年 1 月当時の時刻表によれば、博多駅から姪浜間の距離数は 11.7km で、急行列車での所要時間は 16 分、普通列車では 26 分（運行時間帯によっては 2,3 分所要時間が少ない）となっている。2004（平成 16）年 3 月発行の地下鉄時刻表において、福岡市営地下鉄は博多駅から姪浜駅の距離数は 9.8km で、所要時間は 19 分となっている。旧筑肥線は単線であったが、博多駅から姪浜間については現在の地下鉄と同様の所要時間となっている。もちろん、両鉄道は姪浜駅から博多駅までの輸送能力や停車駅は異なっている。表 2-2 は 1958（昭和 34）年から 1982（昭和 57）年までの博多駅を除く筑前箕島、筑前高宮、小笹、鳥飼、西新および姪浜の各駅の乗降客数を時系列的に示している。総数では時系列的にも乗降客数のうち定期客が約 70%台を占めており、固定の乗客が多いことを示している。ただ、小笹駅のそれは時系列的に 50%台であり、福岡市の観光地である動物園との関係で、他の駅に比べ固定客が少ないことを示しているものと思われる。また、各駅には必ず日本通運の営業所があり、それは旧筑肥線で貨物輸送されてきたコンテナをトラック輸送するというものであった。1960 年代に旧国鉄のコンテナ輸送で“戸口から戸口へ”というキャッチフレーズがそのことを裏付けている。表 2-3 は“旧筑肥線の石炭輸送”の 1960（昭和 35）～1961（昭和 36）年の実

績である。昭和 35 年の姪浜炭鉱が近くにあった姪浜駅からの石炭発送がみられる。1 年後の昭和 36 年はどの駅も貨物発送のウェイトが高くなってきている。表 2-4 は“旧筑肥線沿線の地区別人口”である。4 年間の人口増加率の推移は合計人口では 3.78%の伸びとなっている。

三家英治編『年表でみる日本経済　広告』晃洋書房,1995 年 11 月.210-211 頁.

塔文社『アトラス　福岡市都市圏』塔文社,昭和 52 年.

姪友会古里研究会『郷土写真集 2002 年　姪浜とその周辺―私たちが育った町―』姪友会,2002 年 2 月.

宇都宮照信編『九州　鉄道の記憶　名列車・名場面・廃止線』西日本新聞社,2002 年 12 月.30-33 頁.

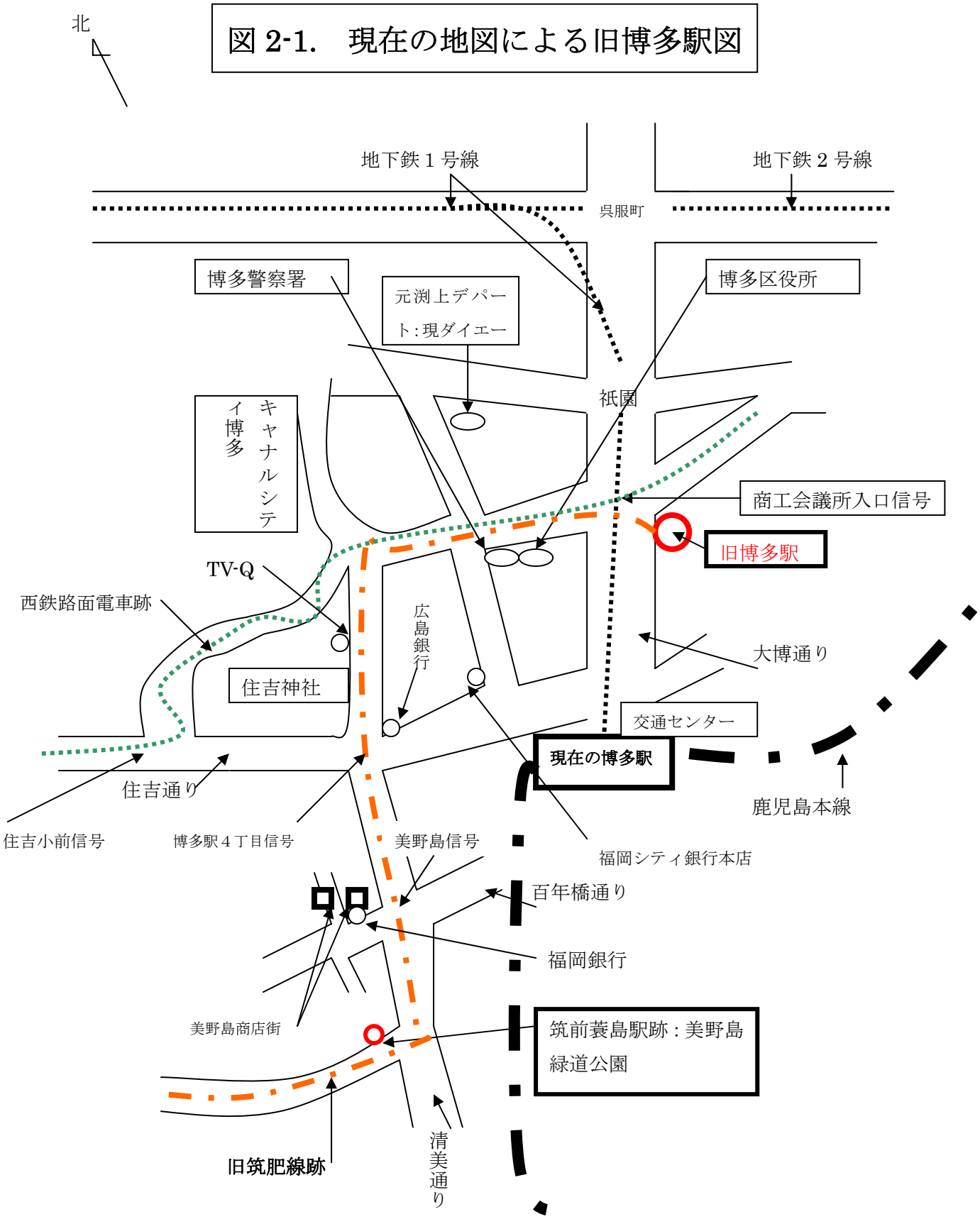
表 2-1.　筑肥線（含：博多駅周辺）関連年表

1894（明治 27）年 4 月 1 日	唐津興業鉄道会社創立
1898（明治 31）年 12 月 1 日	唐津興業鉄道によって山本～大津間 6 哩 24 鎖開通
1900（明治 33）年 4 月 15 日	唐津興業鉄道の社名を唐津鉄道と改称
1912（明治 45・大正元）年 1 月 17 日	唐津線山本～岸岳間 2 哩 6 分開通
1916（大正 5）年 10 月 30 日	唐津～西唐津間の九州電燈鉄道株式会社軌道平面交差を高架交差とした
1923（大正 12）年 12 月 5 日	北九州鉄道によって、福吉～浜崎間が開通
1925（大正 15）年 6 月 15 日	東唐津～虹ノ松原間 1 哩 9 分および姪浜・西新・鳥飼・筑前高宮間 5 哩 6 分開通
1925（大正 15）年 11 月 20 日	筑前高宮と南博多間開通（北九州鉄道）
1937（昭和 12）年 10 月 1 日	北九州鉄道株式会社の博多～伊万里間を買収し、筑肥線として運輸営業を開始（国有化）
1946（昭和 21）年 11 月 15 日	筑肥線筑前蓑島駅において運輸営業を復活
1950（昭和 25）年 5 月 20 日	筑肥線久里を鏡と、上久里を久里とそれぞれ改称
1962（昭和 37）年 4 月 15 日	博多民衆駅の建設工事が着工
1962（昭和 37）年 5 月 31 日	博多ステーションビル起工
1962（昭和 37）年 7 月 14 日	筑肥線生ノ松原乗降場を開設、筑肥線深江浜仮乗降場を開設
1963（昭和 38）年 3 月 15 日	株式会社福岡交通センターが設立され、福岡市長および前助役が取締役となる
1963（昭和 38）年 12 月 1 日	新博多駅完成とともに市観光案内所を同構内に設移
1964（昭和 39）年 5 月 4 日	博多民衆駅完成
1964（昭和 39）年 7 月 1 日	西鉄市内電車博多駅乗り入れ開始
1964（昭和 39）年 7 月 7 日	駅ビル大光百貨店休業
1964（昭和 39）年 11 月 15 日	博多駅前広場地下道および地下街が完成
1964（昭和 39）年 12 月 1 日	新駅開業 1 周年記念
1968（昭和 43）年 9 月 4 日	国鉄諮問委員会「ローカル線の輸送をいかにするか」の意見書を国鉄総裁に提出
1968（昭和 43）年 9 月 4 日	国鉄諮問委員会が赤字線問題について、香椎線（香椎以南）、勝田線、室木線、世知原線、臼ノ浦線、岸岳線、香月線、幸袋線、添田線、佐賀線を廃止して自動車輸送に切換えを勧告
1969（昭和 44）年 2 月 10 日	筑肥線管理所を廃止、唐津運輸長を設置
1972（昭和 47）年 2 月 10 日	営業体制新代化第 4 次実施（波多江～虹の松原）・（筑肥線博多～加布里間の 11 駅が博多駅長の管理下となる。波多江駅～無人加布里駅～貨物集約し営業無人・運転直営となる。）

1974（昭和 49）年 7 月 1 日	周遊指定地「糸島」誕生（筑前前原）
1974（昭和 49）年 9 月 2 日	筑肥線通勤通学輸送力増強のため 7 時 28 分発の東唐津行に 2 両増結
1975（昭和 50）年 3 月 10 日	新幹線高架下を使用して博多ターミナルビルがデイトス商店街をオープン
1975（昭和 50）年 5 月 1 日	博多・筑前前原駅に細線別地震計警報器を設置
1983（昭和 58）年 3 月 22 日	福岡市営地下鉄開業によって博多～姪浜間、虹ノ松原～山本間が廃止され、姪浜～西唐津間が電化される。
1987（昭和 62）年 4 月 1 日	国鉄が民営化される

資料：博多駅 85 年史編纂委員会『博多駅史 85 年の歩み』博多駅 85 年史編纂委員会,1975 年 12 月など

図 2-1.　現在の地図による旧博多駅図



場所	距離	累積距離
旧博多駅（福岡市博多区博多駅前 1 丁目 5 付近：祇園町バス停付近）	0	0
博多警察入口信号	0.5	0.5
博多駅 4 丁目信号	0.6	1.1
美野島信号	0.6	1.7
簑島駅跡福岡市博多区美野島 3 丁目 10 付近（美野島緑道公園内）	0.2	1.9

図 2-2.　旧博多駅図

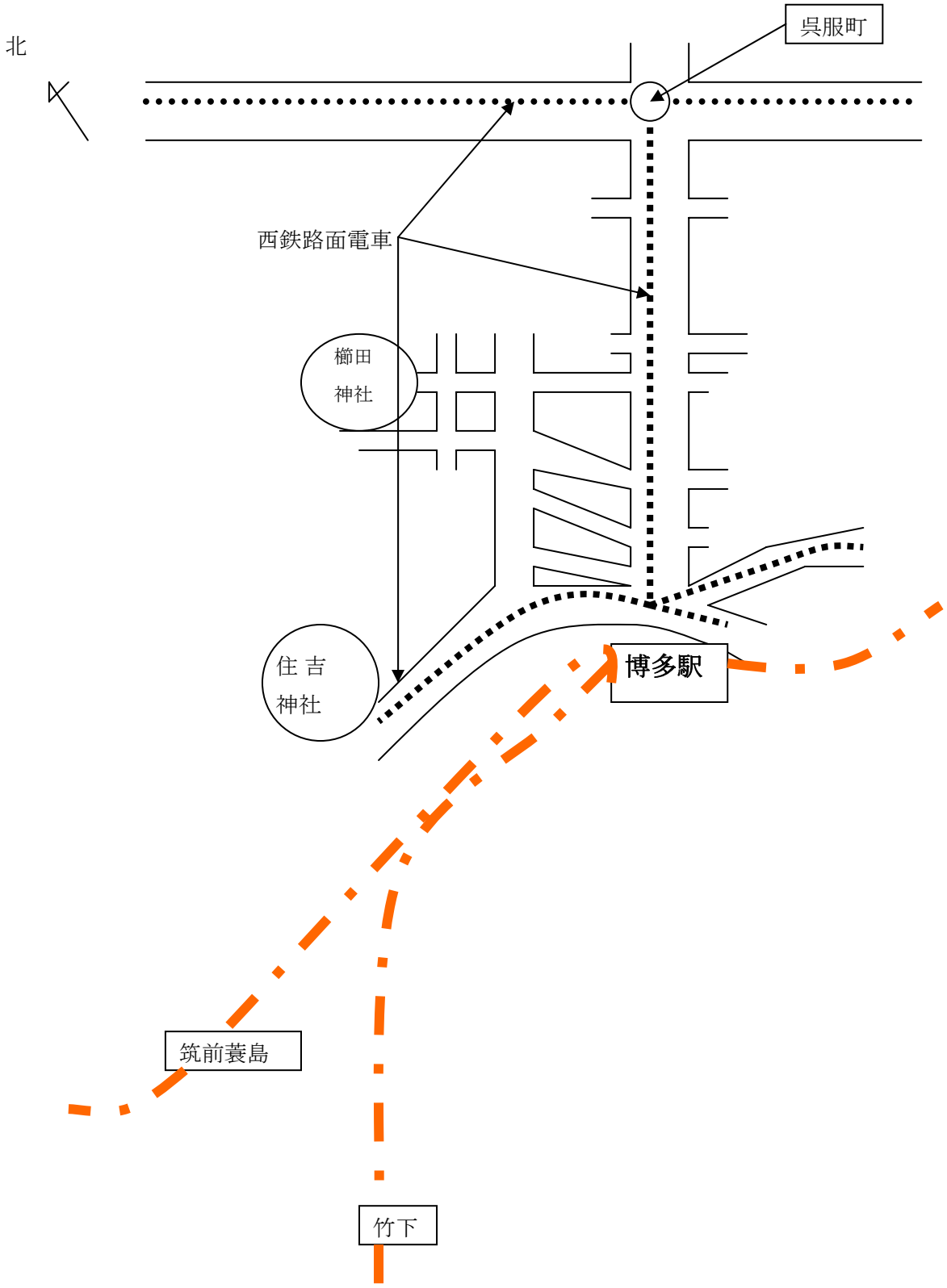
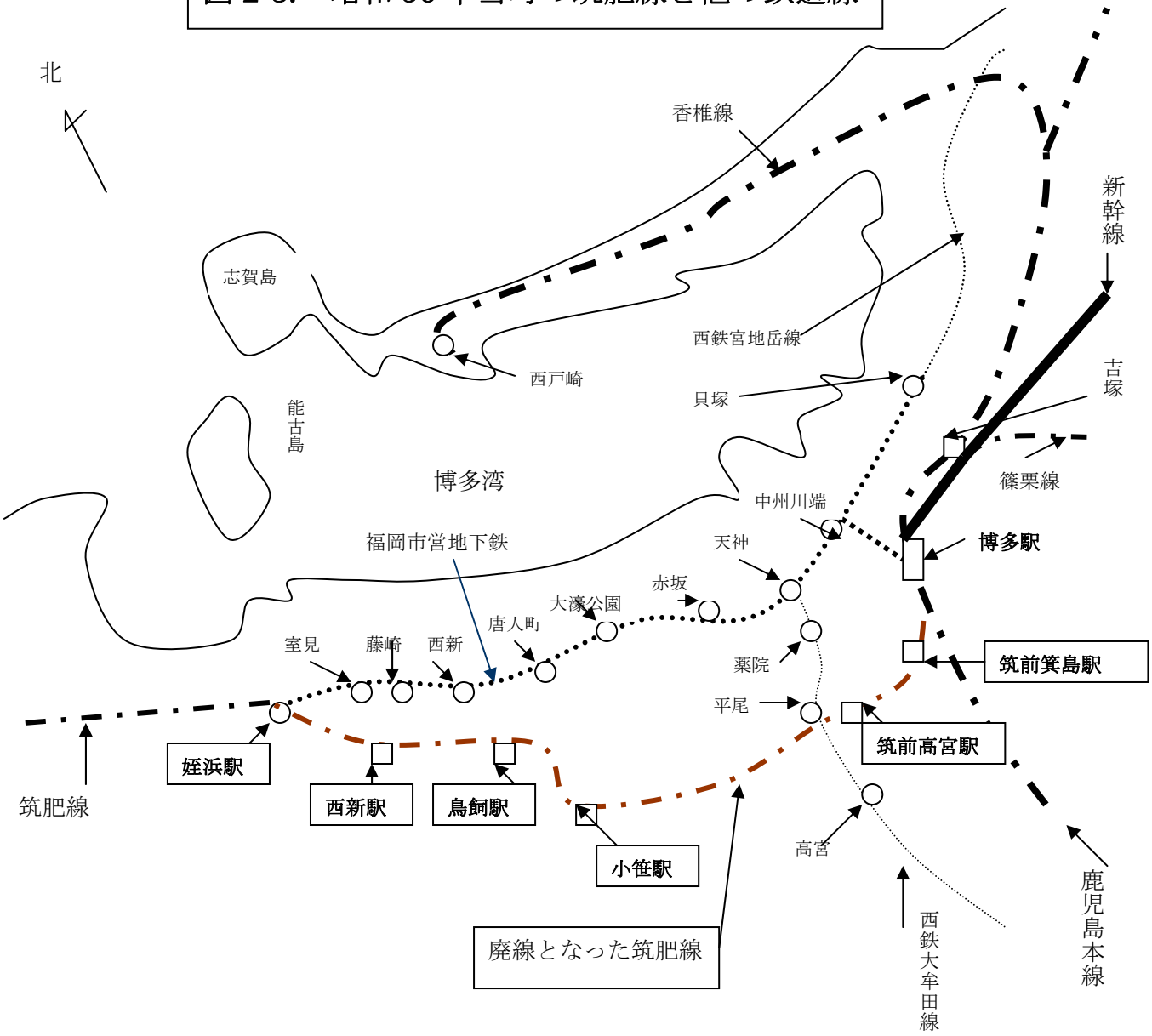


図 2-3.　昭和 56 年当時の筑肥線と他の鉄道線



駅名	歩数	累積歩数	時間（分）	累積時間	乗用車による距離	累積距離
博多駅	0	0	0	0	0.0	0.0
筑前箕島駅	2124	2124	17	17	1.8	1.8
筑前高宮駅	2111	4235	17	34	1.5	3.3
小笹駅	2645	6880	20	54	2.0	5.3
鳥飼駅	3820	10700	29	83	2.7	8.0
西新駅	2786	13486	16	99	1.8	9.8
姪浜駅	4434	17920	38	137	2.9	12.7

・ 廃線となった筑肥線は 1977 年 1 月当時の時刻表によれば博多駅から姪浜駅間の距離数は 11.7km となっている。博多～筑前高宮間の距離は 2.7km で、普通列車での所要時間は 7 分となっている。筑前高宮～姪浜間の距離は 9.0km で、普通列車での所要時間は 15 分となっている。また、博多～姪浜間の距離は 11.7km で、急行列車での所要時間は 16 分、普通列車では 26 分となっている。ただし、時間帯によっては、往路復路ともに 2～3 分の差がある。
・ 歩数と時間は迂回と信号待ちを含む。迂回場所は博多駅から箕島駅間、筑前高宮駅から小笹駅間、小笹駅から鳥飼駅間である。

当時	現在
博多駅	福岡市博多区博多駅中央街（現博多駅）
筑前箕島駅	福岡市博多区美野島 3 丁目（美野島緑道公園内） （那珂川筑肥橋）
筑前高宮駅	福岡市中央区那の川 2 丁目 7 のマンション付近
小笹駅	福岡市中央区小笹 4 丁目小笹北信号付近 （梅光園緑道） （樋井川筑肥橋）
鳥飼駅	福岡市城南区鳥飼 6 丁目 1 の城南区役所付近
西新駅	福岡市早良区昭代 3 丁目 7 のアパートとテニスコート付近 （室見川筑肥橋）
姪浜駅	福岡市西区姪浜 4 丁目 24 付近（現地下鉄姪浜）

早良郡（旧西区）の 1960 年代の旧筑肥線沿いの地区人口を示しているが、その地区の人口増加にともなって旧筑肥線の乗降客数の増加していることを示している。1964（昭和 39）年の流行語に「モータリゼーション」があるが、その後マイカーブームが国民所得の増加とともにおこってきた。マイカーの普及とともに、一般的には鉄道での乗降客数の減少がみられるが、旧筑肥線もその傾向にある。このようなモータリゼーションは福岡市においても“福岡市自動車登録台数”（次節の表 3-2）の推移から明らかである。

なお、旧筑肥線各駅の跡の写真風景を掲載している。写真の風景は、上記の現在地の住所のものである。

旧筑肥線跡の現在の写真

筑前箕島駅跡：美野島緑道内

那珂川筑肥橋

那珂川筑肥橋

筑前箕島駅から筑前高宮駅間

筑前高宮駅跡

筑前高宮駅跡

小笹駅跡

梅光園緑道：小笹駅から鳥飼駅

梅光園緑道：小笹駅から鳥飼駅間

樋井川筑肥橋

樋井川筑肥橋

鳥飼駅跡

鳥飼駅跡（駅前）

西新駅跡（正面より）

西新駅跡（線路跡より）

室身川筑肥橋

姪浜駅（北口）

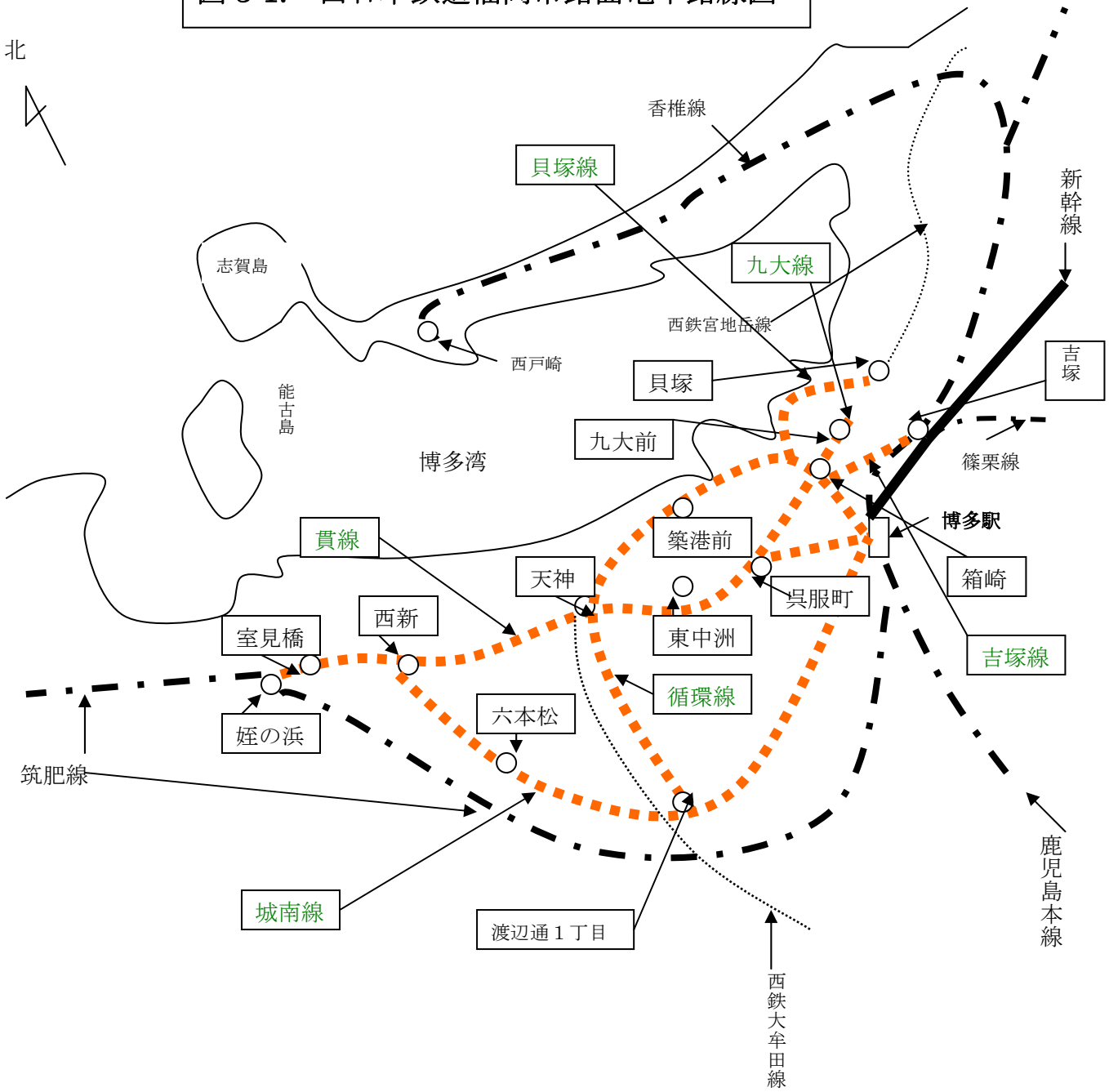
3.　路面電車が果たした役割について

福岡市には西日本鉄道の路面電車が走っていて、貫線、呉服町線および城南線などを走る様々な系統番号の電車があった。1975（昭和 50）年 11 月 1 日の営業運転をもって、貫線、呉服町線および城南線などが廃止されている。路面電車は市の人口増加にともなう都市規模の拡大（都市化の進行）およびドーナツ化減少にともなうモータリゼーションの発達（表 3-2）により、その機能を果たせなくなり、地下鉄構想とともに廃止となっていった。早良郡（旧西区）においても、姪浜営業所、竹ノ山四、愛宕下、室見橋、早良口、藤崎、防塁前西新修猷館前および西新田の各電停から多くの通勤通学の人々を都心方面へ運ぶという大量輸送機関としての役割を果たしていた。表 3-1 の“福岡市の総人口と世帯数”および図 3-1 の“西日本鉄道福岡市路面電車線路図”と系統番号を示している。とくに、福岡市民は博多どんたく港祭りの期間に“花電車”が福岡市内を巡り、早良の市民も姪浜町から西新町の路面電車が走る通りで見物していた。また、西鉄ライオンズの黄金期（1958（昭和 33）年に 3 連覇した時期）や 1963（昭和 38）年の優勝年には多くのライオンズファンを各電停から平和台電停まで輸送していた。

石橋源一郎・波多江五兵衛『思い出のアルバム　博多、あの頃　明治・大正・昭和』葦書房,1977 年 5 月.

北島寛『思い出の博多―昭和 30 年代写真帖―』海鳥社,2003 年 4 月.

図 3-1.　西日本鉄道福岡市路面電車路線図



①姪の浜―西新―天神―呉服町―千代町―九大前（1 番系統）

②姪の浜―西新―天神―呉服町―千代町―貝塚　（5 番系統）

③姪の浜―西新―六本松―渡辺通 1 丁目―博多駅―呉服町―九大前（10 番系統）

④室見橋―西新―六本松―渡辺通 1 丁目―博多駅―呉服町―築港前―天神―渡辺通 1 丁目―博多駅―呉服町―東中洲―天神―西新―室見橋　（8 番系統）

⑤西新―六本松―渡辺通１丁目―天神―呉服町―千代町―九代前　（20 番系統）
⑥西新―六本松―渡辺通１丁目―天神―築港前―貝塚　（25 番系統）
⑦姪の浜―西新―六本松―渡辺通１丁目―博多駅―築港前―天神―渡辺通１丁目―博多駅―呉服町―九代前　（10 番系統）
⑧姪の浜―西新―天神―呉服町―博多駅―渡辺通１丁目―六本松―西新―室見橋―姪の浜（8 番系統）
⑨天神―渡辺通１丁目―博多駅―箱崎―貝塚　（15 番系統）
⑩吉塚―千代町―千鳥橋―天神―渡辺通１丁目―博多駅―千代町―千鳥橋―貝塚（16 番系統）

・　紙幅の制約上、停留所（電停）名を掲載していないものもある。
・　①～⑩にはそれぞれ貫線、城南線、循環線、貝塚線、九大線、吉塚線の経由があったとの記憶がある。

（参考資料）http://nakamura-2.ees.hokudai.ac.jp/Nishitetsu/keitoban.htmlを参考にして系統を作成した。

表 3-1. 福岡市の世帯数と総人口等　　（単位:世帯、人）

年	世帯数	総人口	男	女	1 世帯当たり人口
1890(明治 22)年	9440	50847	26035	24812	5.39
1903(明治 35)年	10406	69518	35674	33844	6.68
1907(明治 40)年	11080	77515	40807	36708	7.00
1912(大正元)年	12982	93517	48023	45494	7.20
1916(大正 5)年	15318	92197	46462	45735	6.02
1921(大正 10)年	16977	105267	52453	52814	6.20
1926(昭和元)年	27917	156288	77802	78486	5.60
1930(昭和 5)年	42873	228289	114818	113471	5.32
1935(昭和 10)年	55184	291158	144474	146684	5.28
1940(昭和 15)年	60027	306763	149598	157165	5.11
1945(昭和 20)年	66548	250580	119714	130866	3.77
1950(昭和 25)年	87700	392649	191838	200811	4.48
1955(昭和 30)年	117583	544312	265836	278476	4.63
1956(昭和 31)年	131477	566131	278459	287672	4.31
1957(昭和 32)年	139953	590790	291391	299399	4.22
1958(昭和 33)年	148562	615996	303952	312044	4.15
1959(昭和 34)年	155995	631714	312435	319279	4.05
1960(昭和 35)年	157965	647122	317012	330110	4.10
1961(昭和 36)年	180472	696143	344262	351881	3.86
1962(昭和 37)年	189951	713697	352176	361521	3.76
1963(昭和 38)年	196257	723514	355827	367687	3.69
1964(昭和 39)年	203385	737995	361708	376287	3.63
1965(昭和 40)年	205673	749808	364835	384973	3.65
1966(昭和 41)年	233721	784503	385995	398508	3.36
1967(昭和 42)年	243203	802277	393828	408449	3.30
1968(昭和 43)年	254768	818727	402172	416555	3.21
1969(昭和 44)年	249828	832569	408099	424470	3.33
1970(昭和 45)年	260376	853270	417877	435393	3.28
1971(昭和 46)年	277877	891217	437246	453971	3.21
1972(昭和 47)年	291310	912485	446998	465487	3.13
1973(昭和 48)年	301990	938423	460158	478265	3.11
1974(昭和 49)年	318310	967362	475336	492026	3.04
1975(昭和 50)年	333928	1002201	493362	508839	3.00

1976(昭和 51)年	343730	1021623	503278	518345	2.97
1977(昭和 52)年	352040	1039286	511534	527752	2.95
1978(昭和 53)年	360326	1055454	519725	535729	2.93
1979(昭和 54)年	368662	1070824	527938	542886	2.90
1980(昭和 55)年	397013	1088588	536765	551823	2.74
1981(昭和 56)年	404069	1103158	543204	559954	2.73
1982(昭和 57)年	412170	1118834	550376	568458	2.71
1983(昭和 58)年	420321	1134506	557611	576895	2.70
1984(昭和 59)年	427010	1148176	563024	585152	2.69
1985(昭和 60)年	433348	1160440	568166	592274	2.68
1986(昭和 61)年	444059	1177133	575978	601155	2.65
1987(昭和 62)年	454548	1193403	583286	610117	2.63
1988(昭和 63)年	465116	1208006	590303	617703	2.60
1989(平成元)年	477811	1223965	597778	626187	2.56
1990(平成 2)年	490915	1237062	603548	633514	2.52
1991(平成 3)年	503951	1249948	609128	640820	2.48
1992(平成 4)年	517124	1262915	615193	647722	2.44
1993(平成 5)年	526262	1270513	618180	652333	2.41
1994(平成 6)年	534882	1277681	621129	656552	2.39
1995(平成 7)年	544145	1284795	624622	660173	2.36
1996(平成 8)年	555687	1296308	630005	666303	2.33
1997(平成 9)年	567896	1309330	635325	674005	2.31
1998(平成 10)年	579675	1321914	640553	681361	2.28
1999(平成 11)年	589627	1331406	644123	687283	2.26
2000(平成 12)年	599989	1341470	647816	693654	2.24
2001(平成 13)年	610661	1354304	652913	701391	2.22
2002(平成 14)年	621870	1368450	659024	709426	2.20

・各年 10 月 1 日現在

資料：福岡市総務企画局調整部統計調査課編集『福岡市統計書』より作成

表 3-2. 福岡市自動車登録台数　　（単位:台）

年度	総数	乗用車	小型車
1959(昭和 34)年	5574	－	－
1960(昭和 35)年	7161	－	－
1961(昭和 36)年	8683	621	8062
1962(昭和 37)年	12015	689	11326
1963(昭和 38)年	15014	694	14320
1964(昭和 39)年	16187	677	15510
1965(昭和 40)年	21192	603	20589
1966(昭和 41)年	30212	672	29540
1967(昭和 42)年	47522	767	46755
1968(昭和 43)年	52218	783	51435
1969(昭和 44)年	63165	783	62382
1970(昭和 45)年	77755	779	76976
1971(昭和 46)年	79519	839	78680
1972(昭和 47)年	81282	899	80383
1973(昭和 48)年	94936	1208	93728
1974(昭和 49)年	110050	1582	108468
1975(昭和 50)年	128089	2202	125887
1976(昭和 51)年	139734	2659	137075
1977(昭和 52)年	151878	3038	148840
1978(昭和 53)年	165603	3606	161997
1979(昭和 54)年	177710	4340	173370
1980(昭和 55)年	189025	4831	184194
1981(昭和 56)年	198047	5481	192566
1982(昭和 57)年	208765	6023	202742
1983(昭和 58)年	217143	6857	210286
1990(平成 2)年	312483	20306	292177
1991(平成 3)年	331009	27823	303186
1992(平成 4)年	346787	37661	309126
1993(平成 5)年	360743	49571	311172
1994(平成 6)年	373530	63484	310046
1997(平成 9)年	411986	112526	299460
1998(平成 10)年	417055	123062	293993

1999(平成 11)年	419786	133127	286659
2000(平成 12)年	423331	144109	279222
2001(平成 13)年	426527	153578	272949

資料:福岡市総務企画局調整部統計調査課編集『福岡市統計書』より作成

第 2 部　旧街道とその周辺付近の城址について

『早良逍遥マップ記』においても述べているが、旧早良郡には「旧唐津街道」、「旧三瀬街道」、「旧早良街道（板屋道）」および「太閤道」があるが、本書では「旧唐津街道」を除く街道についてそのルート（マップ）を示している。「旧唐津街道」については、川島悦子氏の著書『唐津街道』でそのルートが詳細に示されているので割愛している。

ところで、旧早良郡には、福岡藩 6 街道のうち唐津街道および三瀬街道があり、宿駅は前者が姪浜および後者が金武と飯場（当時怡土郡）それぞれある。ここで取り上げる 2 つの街道と太閤道は、明治時代の測量図、文献に記述されている地名および伝承されていることを参考にして作成していることに留意していただきたい。

丸山雍成『日本近世交通史の研究』吉川弘文館,1989 年 2 月.48～51 頁.

近藤典二『筑前の街道』西日本新聞社,1985 年 4 月.55～59 頁,62～71 頁.

1．旧早良街道（板屋道）について

旧早良街道は西新エルモール（旧西新岩田屋）の南にある旧唐津街道（西新旧通り）と西新歓楽街の入口とが交差する地点の南に向かう道の左手に「菊池道」という道標がある。そこを起点に、曙 2 丁目信号→ツルカメ薬局→太閤道と交差する逢坂→西南分校前信号→干隈中央公園の右側→りんどう保育園（川波病院裏）→櫛田神社→縁切地蔵→水道道→梅野コンクリート工業→重留新町信号→サニー駐車場の横→福岡市立入部保育所→松ケ根の水→福岡市水道局埋設管の地の前→仙道橋→馬頭観音（または福岡市水道局埋設管の地の前→大門）→谷口バス停→板屋→坂本峠→佐賀へというルートである。このルートは江戸時代および明治時代の産業にとって重要なルートであったと考えられる。また、このルートは麁原炭鉱と鳥飼炭鉱の間を通り、七隈原、干隈遺跡群、梅林古墳、櫛田神社、縁切地蔵、村下古墳、林遠里と勧農社、正覚寺跡、茶臼城址、拝塚古墳、菟道岳城址、松ケ根の水、荒平城址、主基斎田跡および栄西茶碑などの史跡名勝があり、旧早良街道が江戸時代および明治時代からということであっても、かなり以前からこの街道周辺で人々の活動がなされていたものと思われる。

地図（マップ）では起点から 2 つのルートに分けているが、これは伝承に基づくものである。こ の 2 つのルートは数 100 メートルで一つになるが、そこまでは並行に続いていて 2 つの道の距離が家一軒分である。

飯倉校区歴史探訪実行委員会『飯倉・唐木・干隈　見歩記』飯倉校区歴史探訪実行委員会,1999 年 3 月.49～53 頁.

2.　旧三瀬街道について

旧三瀬街道の起点は千眼寺の南へ下った旧唐津街道との交差する場所（もう一つの説は、古老の話として、旧唐津街道を東へ 50 メートルほどの大西から紅葉八幡宮の方へという場所）である。千眼寺の南の場所を起点に、弥生２丁目→弥生２丁目バス停→舟底橋→原四ツ角交差点→次郎丸交差点→現在も残る旧道→市営次郎丸団地と集会所前→田の交差点の少し前からの旧道→羽根戸道バス停から右側の旧道→都地川原公園→松風橋→金武（金武宿）→金武から西山へは旧道→西山→山越え→飯場（飯場宿）→三瀬→佐賀へのルートである。このルートには、「藤崎遺跡」、「原遺跡」、「有田遺跡群」および「次郎丸高石遺跡」などがあり、とくに金武には「吉武高木遺跡」、「夫婦塚古墳」、「浦江装飾古墳」（2002（平成 14）年 9 月 21 日の説明会によれば、石室には朱色での装飾がなされており、1400 年前の須恵器や工師器、刀や鏃（やじり）の武器や馬具、耳環（じかん）などが出土）および「城田（じょうた）古墳」（2003（平成 15）年 8 月 2 日の説明会によれば、縄文から弥生時代、さらに古墳時代から平安時代の集落や墳墓などで、とくに中国から輸入された舶載鏡（はくさいきょう）で原鏡は 3 世紀後半期の鋳造で、それを型にとり鋳造した獣帯鏡（じゅうたいきょう）ほか、多数のものが出土品されているとのことである。）など多くの遺跡がある。このルートは古代からの生活活動がなされていたものと思われる。また、このルートには 2 つの宿駅があり、とくに明治時代には佐賀や西山からの物資の運ぶときに金武が中継場所としての役割りを果たしていたものとおもわれる。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.458～459 頁．459 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.220 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録中巻』文献出版,1977 年 12 月.438 頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985 年 12 月.327 頁.

金尾宗平『風土と生活　福岡県地誌』刀江書院,1934 年 9 月.272～275 頁.

3.　太閤道について

早良郡における太閤道の起点は樋井川を渡った安藤外科病院の向かい側にあるビル（別府1－4－13のビルで、ここには以前リボリパンと喫茶トーソンなどが営業していた）付近を起点に、元添田不動産→別府 1 丁目 19－48 から 202 号線へ→別府交番の裏→茶山線を横切り中村学園大学の東側を南下→別府 5 丁目 6－19 から右折→あさひ幼稚園→城南中学校→末永文化センター横の公園（この付近を逢坂）で旧早良街道と交差→美花園→国道 263 号線の荒江逢坂の信号→原農協バス停（202 号線）→原四ツ角交差点→都築病院前→大原橋→小田部 1 丁目信号→小田部 6 丁目－1→室身川（行止り）である。ここから旧太閤道が途切れているので、歩いて下山門、生の松原方面へ歩いて行ける替わりのルートを示すと（原四ツ角交差点→小田部橋→西福岡中学校東→小田部西→福重橋→JA 壱岐農協）→西区役所→車両基地→下山門→生の松原→今宿→･･･→名護屋へのルートである。この（　　）のルートは仮のものである。このルート以外にも原四ツ角交差点から今宿まではいくつかのルートがあるとされている。そのうち、原四ツ角交差点から有田、日向峠を通るルート、原四ツ角交差点から福重、拾六町を通るルートなどを挙げることができる。本書のルートには、忘帰台、有田遺跡群、伊佐治八郎、松浦殿塚、筑紫殿塚、五塔山および壱岐真根子などの史蹟名勝や人物を見ることができる。やはり、上記 2 つの街道と同様、太閤道も古代からの生活活動がなされていたものと思われる。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.458～459 頁．456 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.266 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録中巻』文献出版,1977 年 12 月.447 頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985 年 12 月.326 頁.

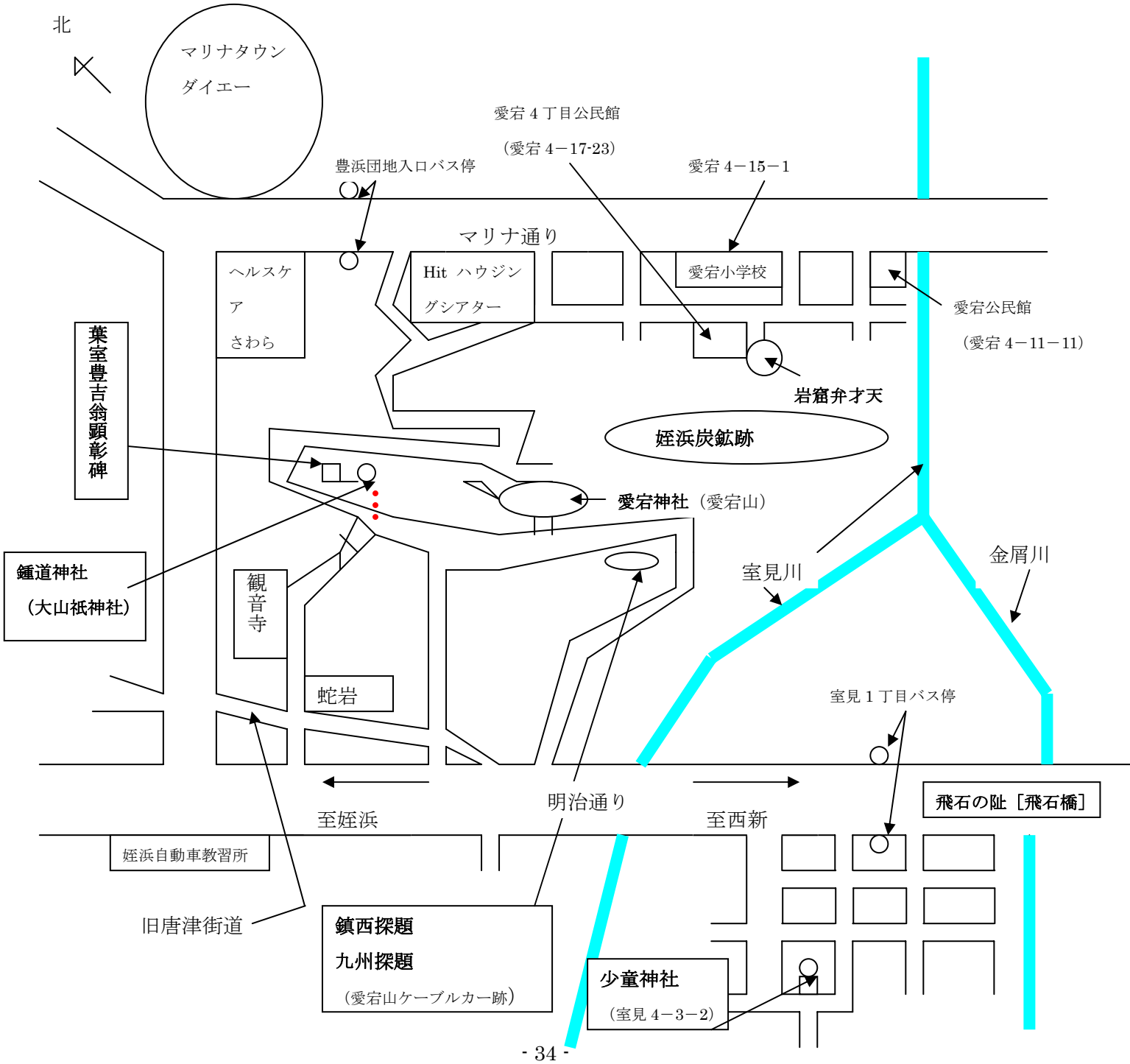
飯倉校区歴史探訪実行委員会『飯倉・唐木・干隈　見歩記』飯倉校区歴史探訪実行委員会,1999 年 3 月.45 頁.

牛嶋英俊「太閤道伝説を歩く（九）福岡市の太閤道」『西日本文化（CSN)』西日本文化協会,2001 年 12 月.9～15 頁

4. 早良逍遥マップの一部とマップに掲載の史蹟名勝の解説

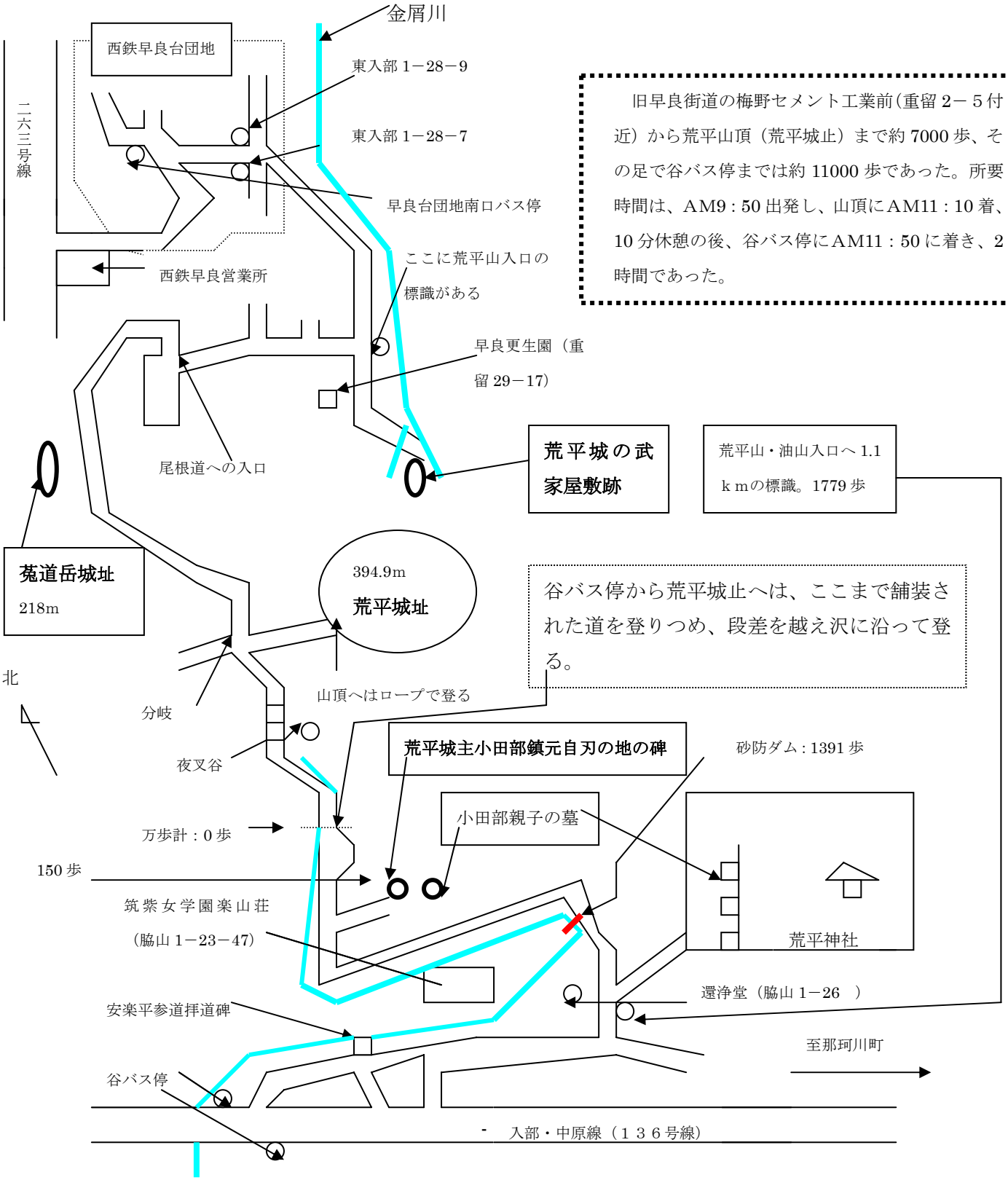
旧唐津街道、旧三瀬街道および旧早良街道周辺には、早良の歴史において重要な史蹟名勝のうち城址、農業指導者、エネルギー産業の炭鉱跡がある。併せて、これらのマップと解説を提示しているが、それら周辺の史蹟名勝を「逍遥」のためにマップと解説を提示している。さらに、早良の城址のうち九州探題が北条執権時代に存在したが、その探題の起源であった京都の六波羅探題跡とその解説を提示している。これらについては『早良逍遥マップ記』の再掲であるが、本書は再掲の史蹟名勝について現在の写真を掲載している点が異なっている。

少童神社［官公腰掛の石］（福岡市早良区室見 4－3－2）
飛石の阯［飛石橋］（福岡市早良区金屑川に架かる飛石橋の下）
岩窟弁才天（福岡市西区愛宕 4－17－23 の愛宕 4 丁目公民館の東隣り）
姪浜炭鉱跡（福岡市西区愛宕 4 丁目付近で愛宕山の北）
愛宕神社（福岡市西区愛宕 2－7－1）
鎮西探題（福岡市西区の愛宕山のケーブルカー跡付近）
九州探題（福岡市西区の愛宕山のケーブルカー跡付近）
葉室豊吉翁顕彰碑（福岡市西区愛宕山の**鍾道神社**の裏）



亀井南冥生誕の地（福岡市西区姪の浜 3－15－9）
万正寺（福岡市西区姪の浜 2－14－17）
探題墓（**万正寺**の裏山で、姪浜小学校体育館近くの**埴安神社**内）
住吉神社（福岡市西区姪の浜 3－5－5）
旦過だるま堂（福岡市西区姪の浜 5－13－7）
興徳寺（福岡市西区姪の浜 5－23－1）
丸隈山[探題出城址]（福岡市西区小戸 1－29－23 付近）
志々岐神社（丸隈山の岩肌）
元寇防塁跡（小戸 1 丁目の丸隈山西隣り）
小戸神社（福岡市西区小戸 2－6 の小戸公園内）
中隈山[砲台跡](福岡市西区小戸 2－6 の小戸公園内)

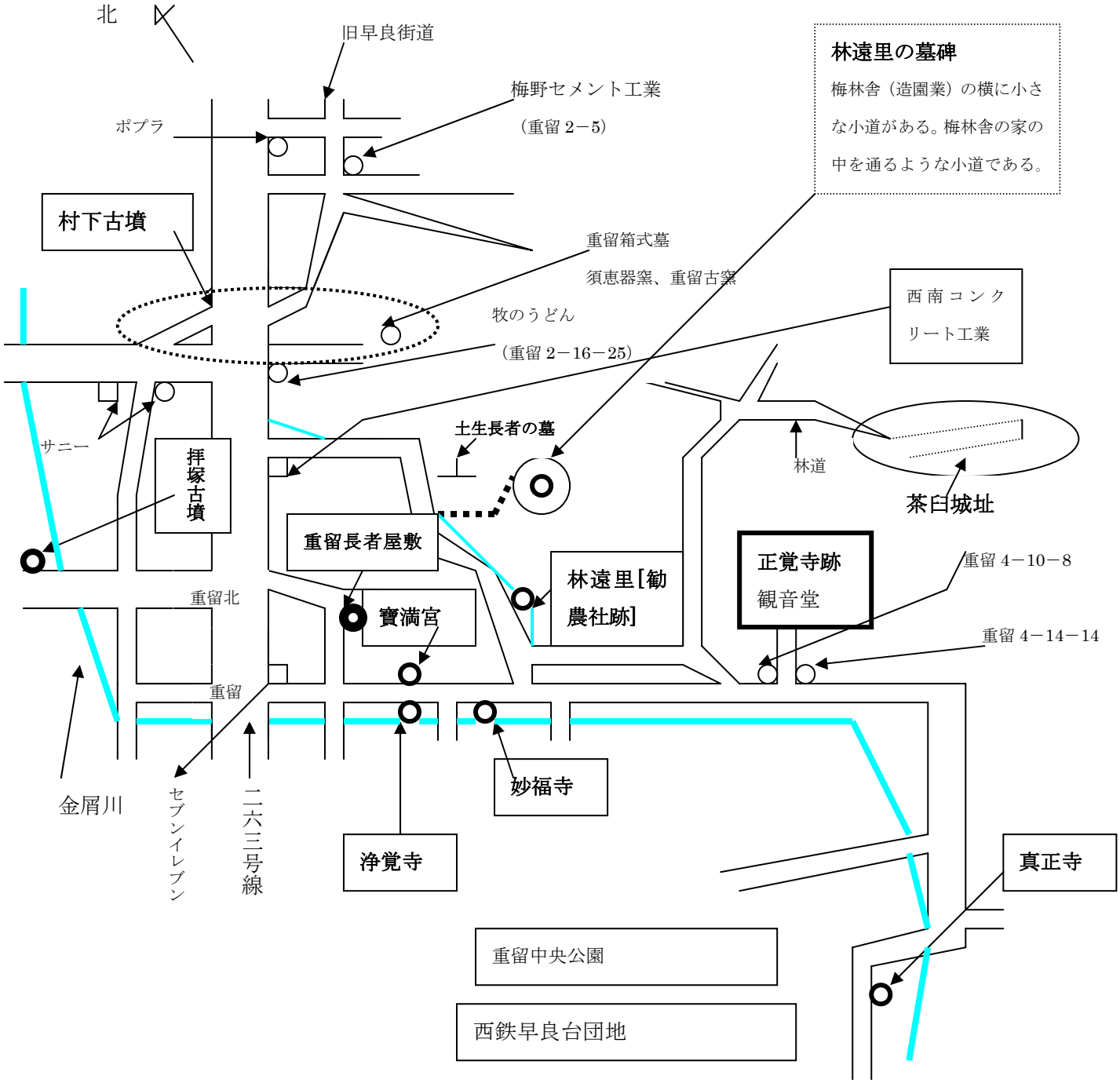
荒平[安楽平]城址（福岡市早良区重留の南にある荒平山の頂き）
菟道岳城址（福岡市早良区東入部の入部出張所の東にある山の頂き）
荒平城主小田部鎮元自刃の地の碑（荒平城址の南）
小田部親子の墓（自刃の地の西隣り：天子天ケ森）
小田部親子の墓（福岡市早良区脇山 1－26 の還浄堂の北東にある**荒平神社**内）



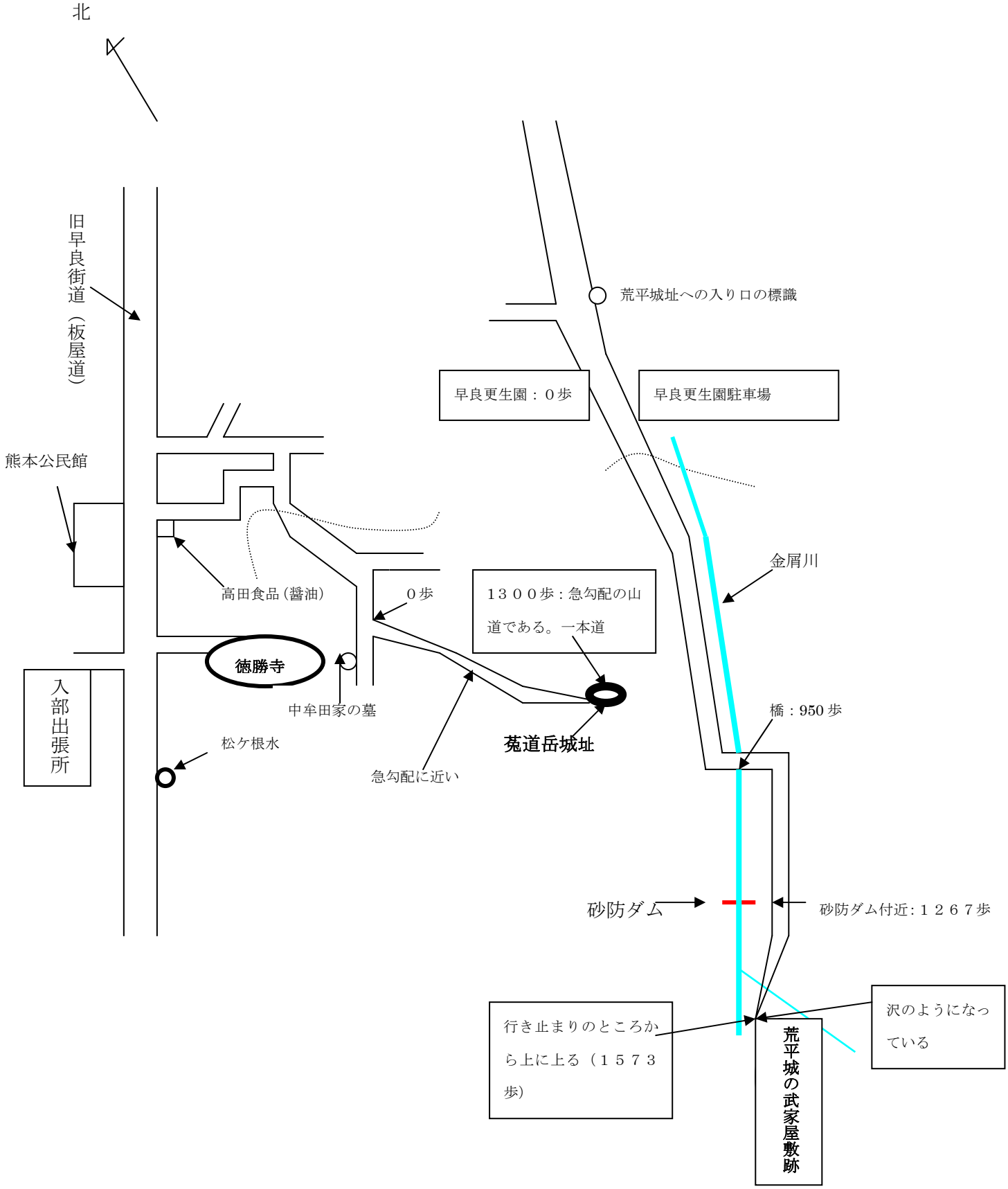
旧早良街道の梅野セメント工業前（重留 2－５付近）から荒平山頂（荒平城址）まで約 7000 歩、その足で谷バス停までは約 11000 歩であった。所要時間は、AM9：50 出発し、山頂にAM11：10 着、10 分休憩の後、谷バス停にAM11：50 に着き、2 時間であった。

谷バス停から荒平城址へは、ここまで舗装された道を登りつめ、段差を越え沢に沿って登る。

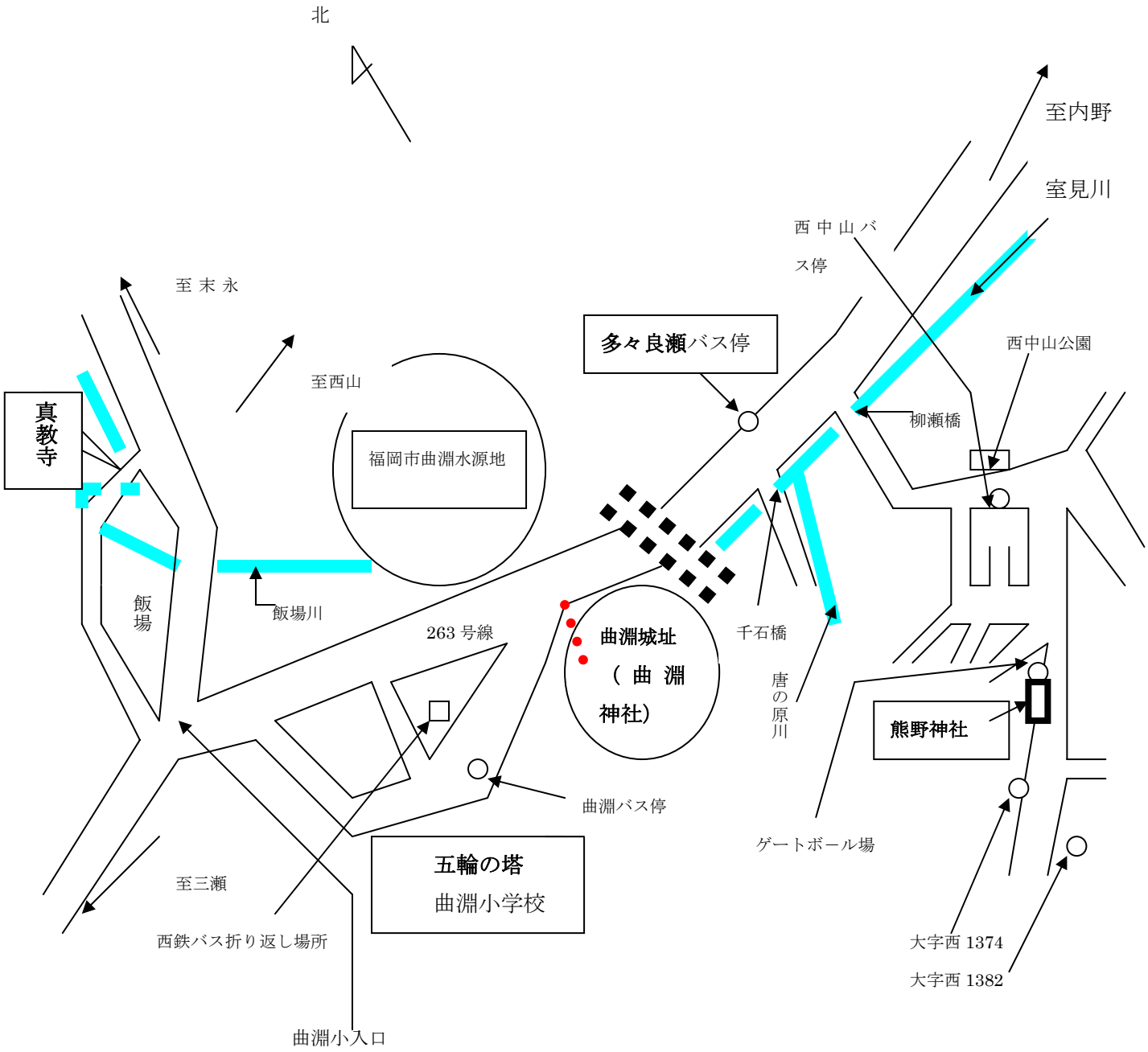
村下古墳（福岡市早良区重留 1 丁目、2 丁目及び 6 丁目周辺）
拝塚古墳（福岡市早良区重留 993 付近）
寶満宮（福岡市早良区重留 2－16）
林遠里の墓碑（福岡市早良区重留 4－12 付近）
林遠里[勧農社跡]（福岡市早良区重留 4－11－47）
重留長者屋敷跡（福岡市早良区重留 4－6－6 付近）
正覚寺跡（福岡市早良区重留 4－14－14 の北にある**観音堂**）
浄覚寺（福岡市早良区重留 5－3－8）
妙福寺（福岡市早良区重留 5－8－10）
真正寺（福岡市早良区重留 5－17－11）
茶臼城址（福岡市早良区重留 4－14 付近の小山）



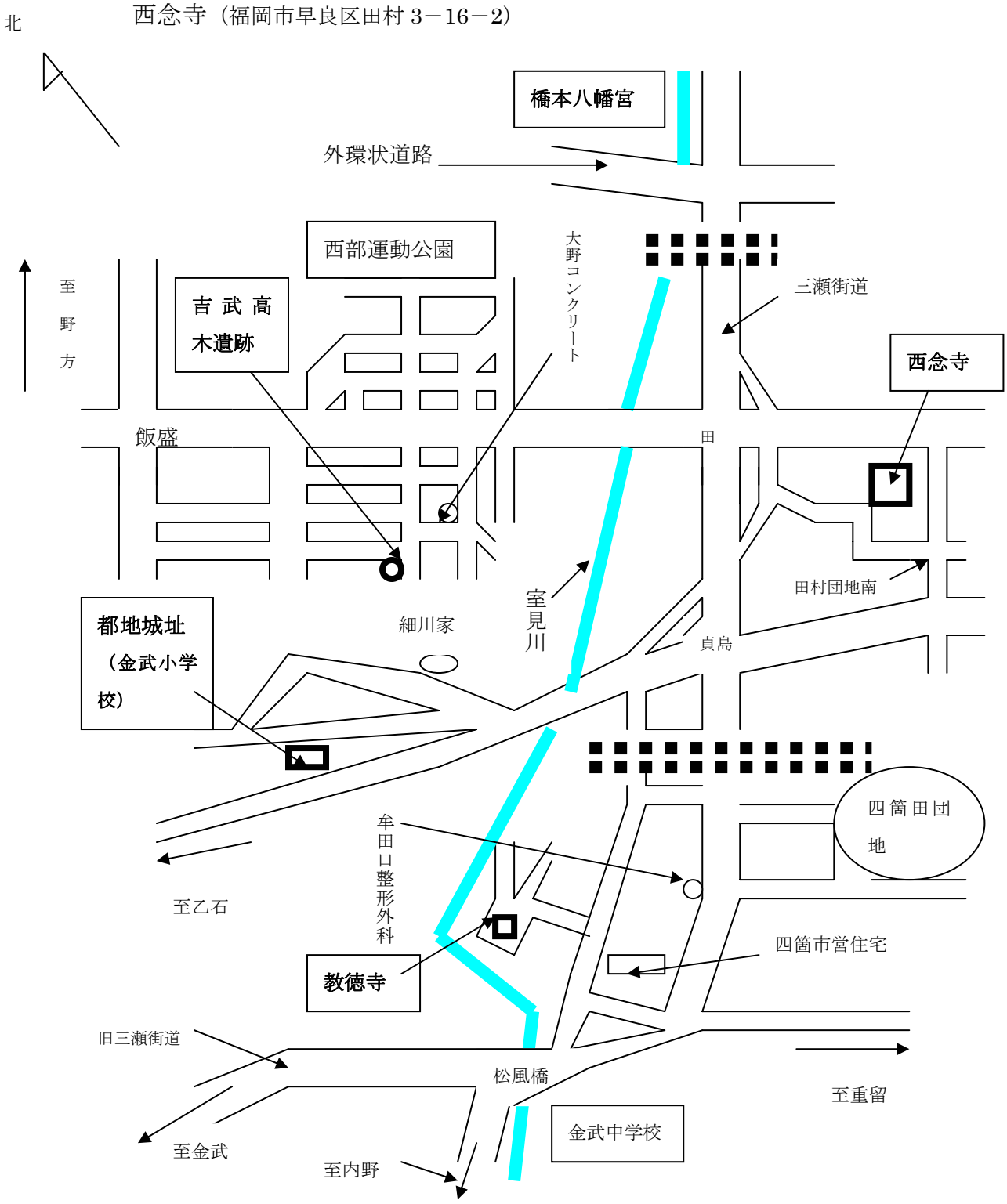
菟道岳城址（福岡市早良区東入部の入部出張所の東にある山の頂き）
荒平城の武家屋敷跡（福岡市早良区重留の早良更生園の南）



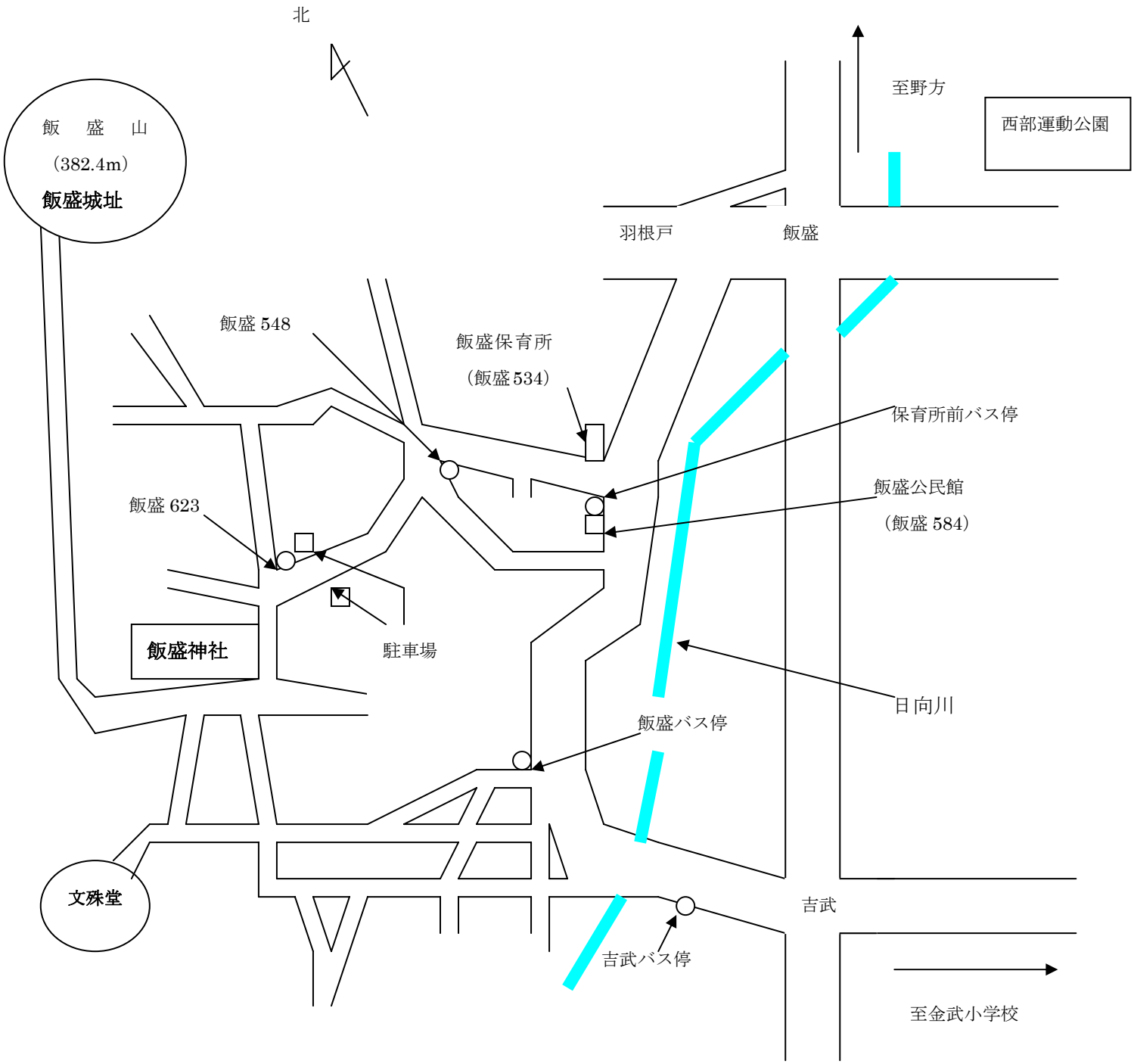
真教寺（福岡市早良区飯場 225）
五輪の塔[五重石塔]（福岡市早良区曲淵 713－1 の**曲淵小学校**内）
曲淵城址（福岡市早良区曲淵小学校付近）
多々良瀬（福岡市早良区大字石釜付近）
熊野神社[三社宮（中山）]（福岡市早良区大字西 1374 付近）



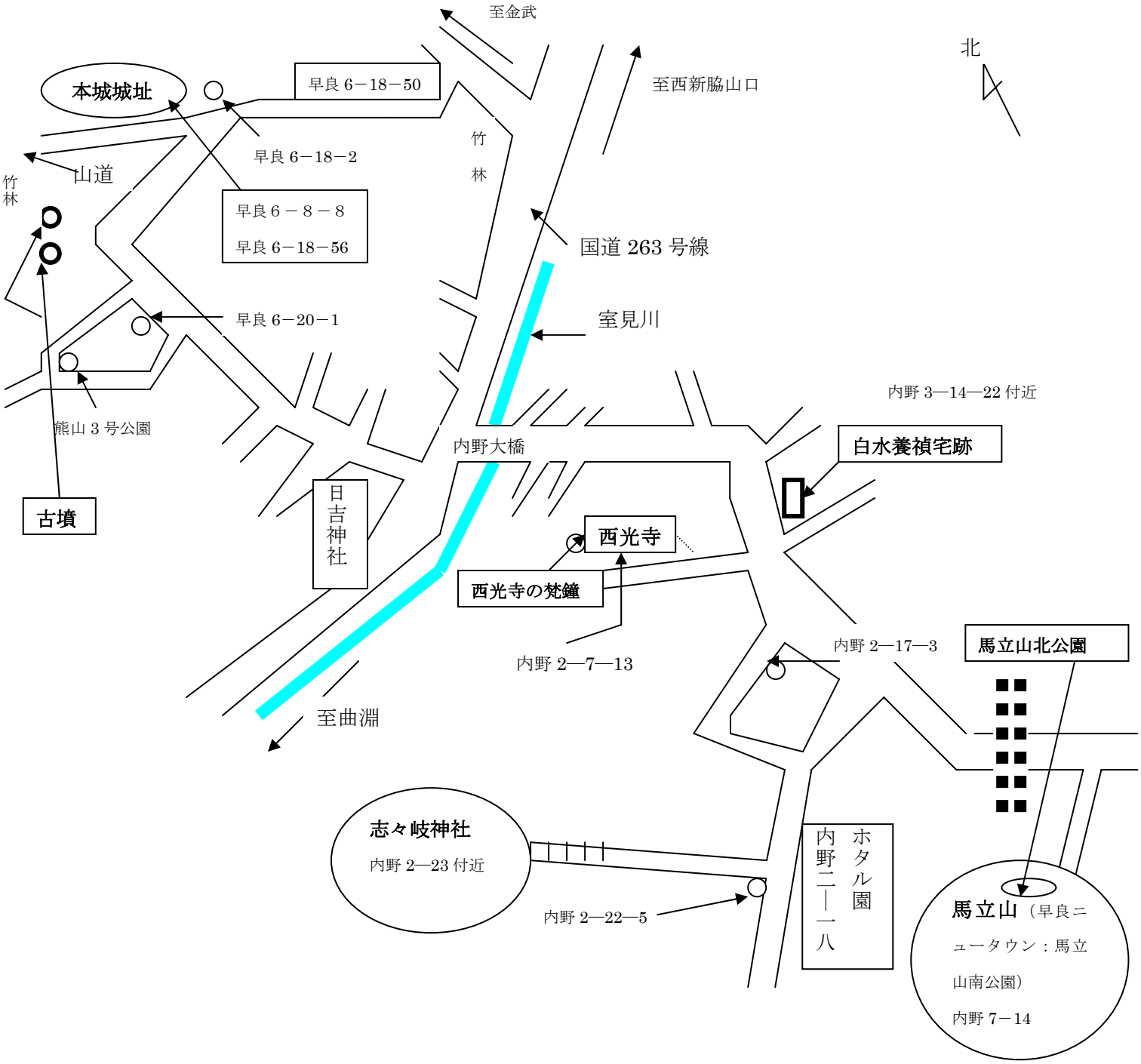
橋本八幡宮（福岡市西区橋本 2－29）
吉武高木遺跡（福岡市西区大字吉武）
都地城址（福岡市西区金武 2028－1 の金武小学校付近と細川家周辺）
教徳寺（福岡市早良区四箇 1-13－1）
西念寺（福岡市早良区田村 3－16－2）



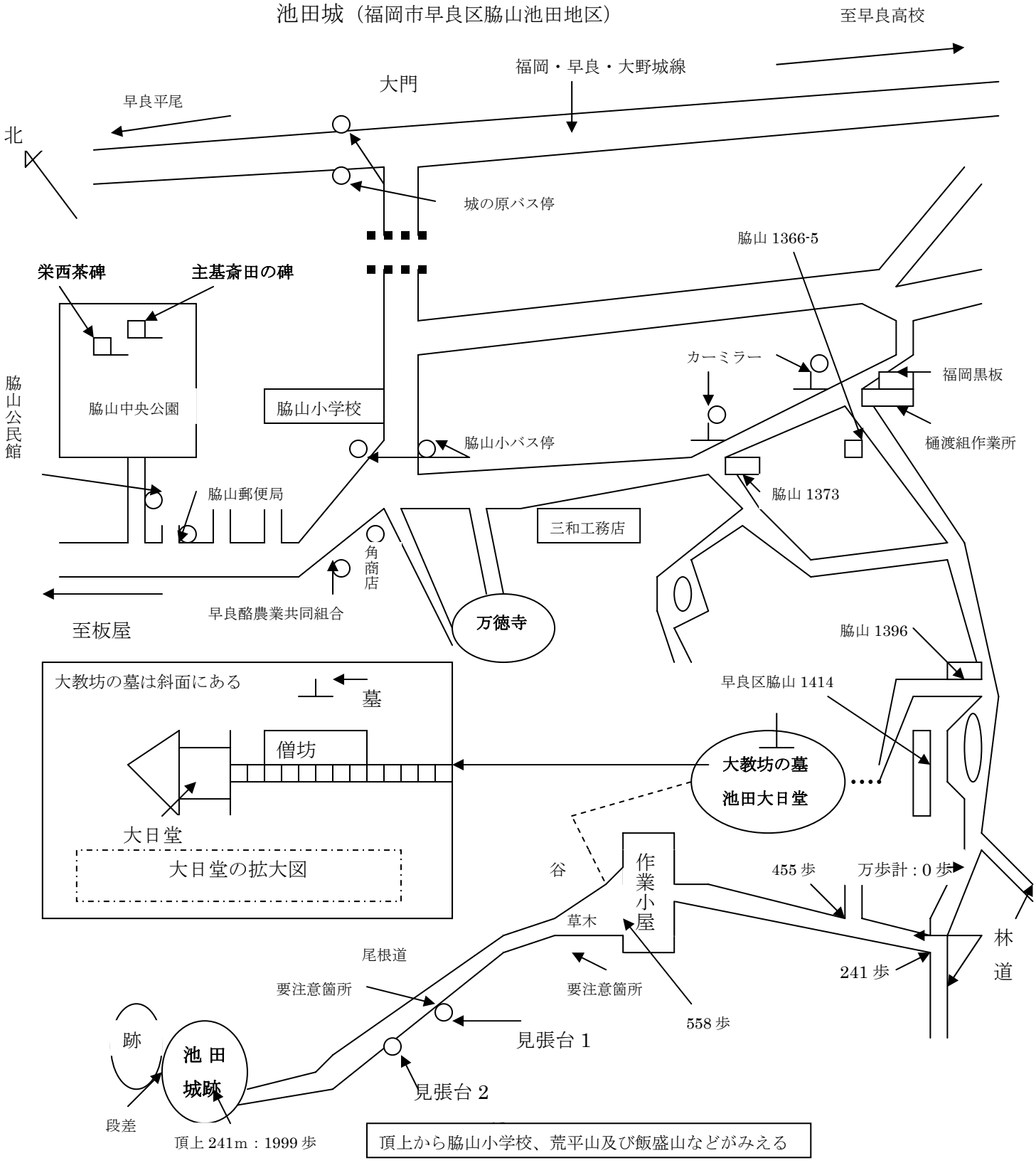
飯盛神社（福岡市西区飯盛 608）
文殊堂（福岡市西区飯盛 608 の飯盛神社から南西へ）
飯盛山城址（飯盛神社上宮）



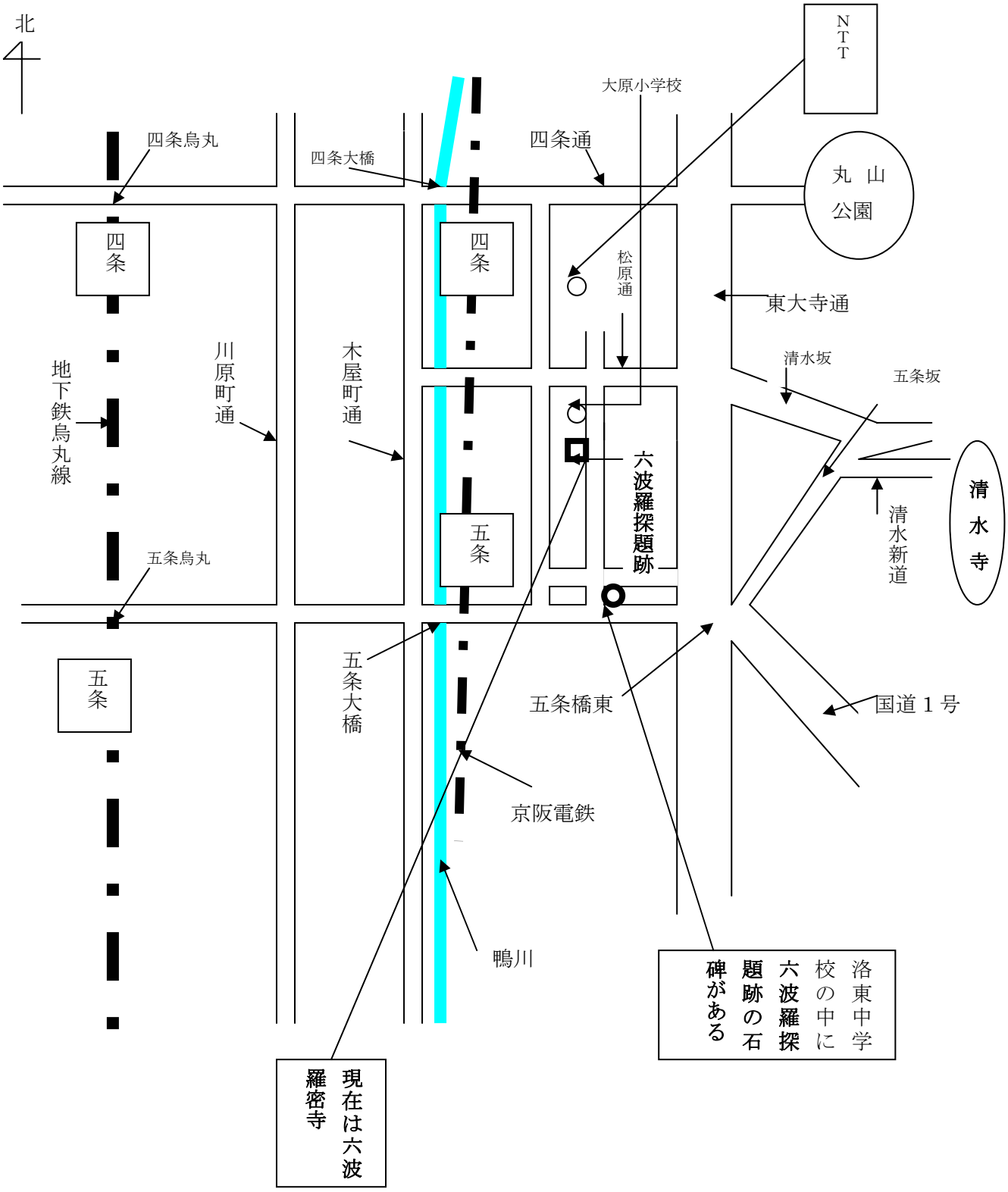
本城城址（福岡市早良区早良 6－8－8 及び 6－18－56 付近）
本城の古墳（福岡市早良区早良 6－8－8 付近）
西光寺（福岡市早良区内野 2－7－13）
白水養禎宅跡（福岡市早良区内野 3－14－22 付近）
志々岐神社（福岡市早良区内野 2－23 付近）
馬立山（福岡市早良区内野 7－14 早良ニュータウン）



主基斎田の跡（福岡市早良区脇山中央公園内）
栄西茶碑（福岡市早良区脇山中央公園内）
万徳寺（福岡市早良区脇山 1818）
池田大日堂（福岡市早良区脇山 1414 付近）
大教坊の墓（福岡市早良区脇山 1414 付近）
池田城（福岡市早良区脇山池田地区）



六波羅探題跡[六波羅密寺]（京都市東山区）



西新炭鉱（早良区祖原）

西新炭鉱は 1891,92（明治 24,5）年頃から 1909（明治 42）年まで、西新町地内で採掘がなされてきたが、あまり振るわなかったとされている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月．190 頁.

大日本帝国陸地測量部『明治 33 年測図　福岡』1904 年.

麁原炭鉱（早良区曙）

西新炭鉱が振るわず、1909（明治 42）年ごろから西新町麁原の南端麁原山麓で石炭が採掘され始めた。当初この炭鉱は狸穴式（クワとモッコによる採炭）で、山本唯三郎（大正の虎狩将軍松昌洋行）による買収後竪抗式（捲胴すなわちリフト）による採炭で出炭量を増やしていったとのことである。この付近は落盤によって田が陥落し、その陥落地に蓮を植え付けているとのことであった。この麁原炭鉱は寛政年間において糟屋郡、遠賀郡、鞍手郡、嘉麻郡および穂波郡等で石炭が出、早良郡麁原村においても石炭があることを認める記述が『筑前国続風土記付録』に記述されているということが『福岡県史資料　別輯』に掲載されている。麁原炭鉱は鳥飼炭鉱と関連しているのでそちらを参照のこと。

福岡市役所『福岡市史第 2 巻大正編』1963 年 10 月．733～743 頁.

伊東尾四郎編『福岡県史資料　別輯』1973 年 10 月．16～17 頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月．190 頁.

大日本帝国陸地測量部『大正 15 年測図　福岡西南部』1929 年 10 月.

鳥飼炭鉱（城南区鳥飼）

山本唯三郎は麁原坑を福岡炭坑第 1 坑西坑とし、鳥飼の西ケ崎を同東坑として採炭をおこなった。麁原と西ケ崎の両所には数十棟の坑夫納屋があったとのことである。福岡市史によれば、石炭の運搬は鳥飼炭鉱（東坑）から麁原炭鉱（西坑）を通じ、麁原山の南端を経て西新町藤崎までの田や山林等を買収し、石炭運搬の専用道路を作り、藤崎で北筑軌道につなぎ、糸島の今宿に運搬した。ここから、石炭は満鉄および鮮鉄等に輸出していたとのことであった。大日本帝国陸地測量部の地図において、専用道路は現在の鳥飼小学校、麁原山の南側、高取幼稚園の裏、紅葉山の南西および早良口までが掲載されている。伝承ではその専用道路に特殊軌道（引込み線）があったとのことであった。もちろん、鳥飼炭鉱では、それ以外の手段として、樋井川を通じて積み出しがなされていたとのことである。

福岡市役所『福岡市史第 2 巻大正編』1963 年 10 月．733～743 頁.

大日本帝国陸地測量部『大正 15 年測図　福岡西南部』1929 年 10 月.

西日本新聞社『写真集　福岡 100 年』西日本新聞社,1985 年 6 月．77 頁,399 頁.

柳猛直『福岡歴史探訪　南区・城南区編』海鳥社,1994 年 6 月．178～182 頁.
「北筑軌道」について、http://www.asahi-net.or.jp/~yc4k-hrd/abolish.htm　および
http://ty-land.honesta.net/railway/kyuusyuu-okinawa/fukuoka/fukuoka_index.htm

樋井川炭鉱（城南区笹丘）

早良群志では、1894（明治 27）年から採掘許可が出され、大正 8 年に豊国鉱業株式会社が業を起したと記述されている。この炭鉱は鳥飼炭鉱の南東の樋井川沿いにあり、鳥飼炭鉱と同様、運搬はこの川を通じておこなわれていたと思われる。大日本帝国陸地測量部（大正 15 年測量）の地図上では、樋井川炭鉱から荒江の櫛田神社の北、筑肥線西新駅の南（大牟田）、庄の南を経由して姪浜炭鉱第二抗の積出港へのルートもみられるが、伝承を聞いた訳でないので定かでない。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月．191 頁.
大日本帝国陸地測量部『大正 15 年測図　福岡西南部』1929 年 10 月.

姪浜炭鉱（西区愛宕および小戸）

姪浜炭鉱は 1911（明治 44）年に試掘の出願し、1912（大正元）年 7 月に着手がなされている。坑口は愛宕山の裏で現在の豊浜周辺を第 1 坑口、小戸公園付近に第 2 坑口での採炭がなされていた。室見川河口に桟橋が設けられ、そこから運搬されていたとのことである。販路は満鉄、鮮鉄、名古屋、東京、岡山、横浜、広島、大阪、釜山、鉄道省、門司および大連等であったとされている。また、姪浜炭鉱の創業者は葉室豊吉で、愛宕山にある大山祗神社の祠の西側に「葉室翁頌功碑」がある。

福岡市役所『福岡市史第 2 巻大正編』1963 年 10 月 31 日．733～743 頁.
西日本新聞社『写真集　福岡 100 年』西日本新聞社,1985 年 11 月．57 頁.
福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月．191～192 頁.
柳猛直『福岡歴史探訪　西区編』海鳥社,1995 年 6 月．151～157 頁.
西島弘編著『姪の浜を中心とした郷土史誌』野村六郎発行,1992 年 6 月.150～159 頁.
姪友会古里研究会『郷土写真集 2002 年　姪浜とその周辺』姪友会,2002 年 2 月．14～15 頁,21～26 頁,50～54 頁.
「姪浜炭鉱」について、http://record.museum.kyushu-u.ac.jp/sekitan/etc1.htm

探題城址（浦山城址）（西区愛宕）

鎌倉幕府が元寇後、九州を統制するために鎮西探題を置いた。室町幕府になって九州探題として継承され、1396～1424 年の応永年間において、渋川氏が代々務めていた。

宗祗（そうき）筑紫紀行において浦山の景色を絶賛および渋川探題の城址の記述がある。

ケーブルカー跡

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 521～522 頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985 年 12 月.324 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月. 452 頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.450 頁,626～627 頁.

丸隈山[探題出城址]（西区小戸）

丸隈山は射場ともいい、渋川尭顕が探題の出城とした所といわれている。現在は頂上に毘沙門天が祭られており、この像は自然石の平板に三神体を線による彫刻がなされている。

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985 年 12 月.324 頁.

西島弘編『姪の浜を中心とした郷土史誌』野村六郎発行,1992 年 6 月.136～138 頁.

堀の内城址（早良区有田）

小田部氏の里城で、現在は西福岡高校となっているとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 123 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.261 頁.

都地城[ついじじょう]址（西区金武）

細川五位尉蔵人光行の城址である。光行は 1532（天文元）年足利氏の命によって、九州の治安を守るためにこの地に来、若狭守と称して城を構えたとのことである。1558（永禄元）年に小田部紹叱（おたべ　しょうしつ）と戦い戦死したとのことである。その後、光行の子

である左近助は龍造寺隆信に協力し、小田部を討ったとのことである。小早川時代はこの地の代官となっているとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 398 頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999 年 7 月.福岡県城址一覧の 27 頁.

飯盛城址（西区飯盛:飯盛神社上宮）

飯盛山の山頂に 1391 年（北朝では康安元年：南朝では正平 16 年）に北朝方の松浦党が籠城したが、南朝方の菊池肥後守武光に攻められ落城した。その後、高祖城（たかすじょう）の原田了榮の端城になるとの記述がある。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.627 頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 396～397 頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999 年 7 月.福岡県城址一覧の 28 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月. 208～211 頁,527～529 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.444 頁.

茶臼城址（早良区重留）

土生宗觀の居城の址で、宗觀の祖は豊後より重留に来、711（和銅 4）年に築城したとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 230 頁.

石津司『安楽平城物語　その 6 』38 頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999 年 7 月.福岡県城址一覧の 26 頁.

菟道岳城址（早良区東入部）

東入部の隈本（熊本）に荒平城の出城として存在したとの記述がある。また、弘安の役当時見張り所を設けた跡との伝承もある。

ところで、菟道岳城址へのルートは現在の東入部にある高田食品工業（醤油）より東南へ入ってゆくが、その山への上り口付近には当時の入部地方を管領していた入部麿の墓や現在まで岩田屋百貨店の経営者であった中牟田家ルーツの墓などがこの地の歴史的史跡等が多く存在している

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.531 頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 230 頁,232 頁.

西日本文化協会編纂「近代史料編　福岡県地理全誌（六）」『福岡県史』1995 年 3 月．74 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月. 425～426 頁.

荒平城（安楽平城）址、荒平神社、小田部親子の墓、小田部鎮元自刃の碑、荒平武家屋敷址（早良区重留および早良区脇山など）

荒平城は大友 5 城[荒平城（早良区東入部）、鷲ケ岳城（那珂川町南面里）、岩屋城（太宰府）、立花城（新宮町立花口）および柑子岳城（草場城：西区今津）]の一つで小田部鎮元（おたべ　しずもと）の居城である。城は油山連山の一峰である荒平山（標高 394.9 メートル）の頂上に約 300 坪の本丸跡がある。平戸より松浦鎮隆が荒平城に入り、小田部姓を受け継いだとされている。この小田部民部少鎮隆の養子として鷲ケ岳城主大鶴宗雲の 2 男であった鎮元が荒平城主となった。

荒平城は肥前龍造寺隆信の３男である江上下総守家種を総大将に執行越前守、神代対馬守長良、曲淵河内守および山伏大教坊（中納言藤原兼光）などによって攻撃された。山伏大教坊は打ち負かしたが、立花城主立花道雪の援軍は間に合わず 1579（天正 7）年落城した。荒平城主の家臣やその末裔には、次郎丸の松尾大善（早良区次郎丸）、伊佐家（早良区小田部および高取（大西））および中牟田家（早良区東入部（熊本））などが有名である。

現在の早良区谷のバス停から荒平参道の道を城の原林道に進んでいくと林道の途中に「荒平神社」があり、そこに「小田部父子の墓」が 3 基ある。そこから上り坂を登りつめると「小田部鎮元の墓」と「小田部鎮元自刃之地」の碑がある。さらに、そこから夜叉谷経由で山頂の荒平城址に着く。

また荒平城には現在の早良区入部の早良更生園から２つのルート（早良更生園の西側と南側）があり、そのうちの１つである南側ルートは金屑川の源流につながっており、その奥には荒平武家屋敷址（荒平城下町）といわれている伝承の地がある。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.531～532 頁.
加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.422 頁、627 頁.
奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985 年 12 月.328 頁.
貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.627～631 頁.
伊藤常足編録『太宰管内史　上巻　筑前之部』日本歴史地理学会,1908 年 9 月.174～176 頁.
福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.前編 226 頁、後編 229 頁.
吉永正春『筑前戦国史』葦書房,1997 年 6 月.132～142 頁.
石津司『安楽平城物語　その 6 』38 頁.
廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999 年 7 月.244～246 頁.
廣崎篤夫「ふくおか古城散策　第 19 回　荒平城（安楽平城）・鷲ケ岳城」『グラフ　ふくおか』2001 年 6・7 月.24～25 頁.
西日本文化協会編纂「近代史料編　福岡県地理全誌（六）」『福岡県史』1995 年 3 月．28 頁、79～83 頁.

本城城址（早良区早良）

龍造寺隆信による安楽平城攻撃の時に執行越前が本陣を置いた所とされている。安楽平城から南西にある本城山の山麓に位置している。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.530～531 頁.
福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 342～343 頁.
廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999 年 7 月.福岡県城址一覧の 27 頁.

馬立山（早良区内野）

執行越前が安楽平城（荒平城）を攻めるときに丘の上に陣馬を立てた所で、これよりこの丘を馬立山と言われている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 290～291 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.530～531 頁.

池田城址（早良区脇山）、山伏大教坊の墓（早良区脇山）

山伏大教坊（中納言藤原兼光）の居城の址で池田山（241 メートル）の山頂にあったとされる。池田城は池田大日堂の西南 3 町（約 327 メートル）付近との記述がなされている。

山伏大教坊の墓および坊屋敷は池田大日堂の右斜面および正面入口の右側にそれぞれある。

吉永正春『筑前戦国史』葦書房,1997 年 6 月.134 頁.

石津司『安楽平城物語　その３』43 頁.

西日本文化協会編纂「近代史料編　福岡県地理全誌（六）」『福岡県史』1995 年 3 月．28 頁.

曲淵城址、曲淵神社（早良区曲淵）

曲淵河内守房助の子である信助の居城の址である。曲淵氏は曲淵、石釜、西、金武、四箇、田、次郎丸、野芥、七隈、荒江および麁原等を領し、高祖の原田氏に属していたとのことである。曲淵神社は曲淵ダム建設にともない、1918（大正 7）年に現在地の曲淵城址に移されたとのことである。神社は 950（天暦 4）年肥後国の落人であった小国源左衛門によって建立されたといわれている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 324 頁.

廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社,1999 年 7 月.福岡県城址一覧の 27 頁.

早良区総務部市民相談室『早良散策』早良区総務部市民相談室,1991 年 3 月．11 頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.631 頁

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月. 529 頁.

住吉神社（西区姪の浜）

住吉神社は 729～749 年の天平年間に創建されたといわれている。海岸近くにあったが、1416（応永 23）年に現在地に移転している。黒田忠之公が鉄の灯籠を寄進しており、福岡藩の信仰も厚かったとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 509～510 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.185～186 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.447～450 頁.

福岡市西区役所監修『福岡史跡ガイド　西区は歴史の博物館』海鳥社,1995 年 10 月.113～114 頁.

小戸神社（西区小戸）

小戸神社のそばに御膳立がある。これは妙見崎にあり、膳碗（ぜんわん）の形をしていたとのことであるが、現在は海中とのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 512 頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985 年 12 月.324 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.186 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.450～451 頁.

愛宕神社（西区愛宕）

愛宕山は鷲尾山といわれていた。72 年の景行天皇のとき鷲尾権現の鎮座するこの山が開かれている。956 年の村上天皇のとき社殿が改築された。第 2 次世界大戦前まであったケーブルカー跡である場所（愛宕神社の南方の山頂）は九州探題跡である。鎌倉時代の元寇の役後、北條幕府によって鎮西探題が置かれた。1634（寛永 11）年に福岡藩二代藩主黒田忠之公が山城国より愛宕権現をこの地に移し祭った。1632（寛永 9）年の「黒田騒動」のとき、山城国愛宕権現に祈願し、疑いが晴れたことにより、忠之公が愛宕権現の分霊を移し祭ったとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 510～512 頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985 年 12 月.323 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月 186～188 頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月 448～449 頁.

愛宕神社監修『愛宕神社物語』企画事務所ウィル,1995 年 8 月．4～7 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.415 頁.

少童（わだづみ）神社（早良区室見）

1920（大正 9）年 12 月 3 日に金戸の天満神社と合併し、少童神社と称している。境内には大宰府への左遷のおり菅公が腰掛た石がある。

また、菅原道真が大宰府への一つである室見川ルートに、室見 4 丁目の「少童（わだつみ）神社」の菅公腰掛の石、東入部 2 丁目熊本の「松ケ根水」の菅公が今宮神社に参拝する前にここの水で手を清めたとされる水、小笠木の「笠掛天神森」の菅公が休息のために立ち寄った森の木にかぶっていた笠を掛けて休んだという場所（現早良高校付近）があり、地元の人が「宰府道（さいふみち)」といっている脇の林の中に「舟石」といわれる大きな石の舟がある。この石は菅公が大宰府に向かうときに乗ってきた舟が石に変わったとの伝承されているものである。少童神社付近は海に近く塩田があったとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 118 頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.406～407 頁,447 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.181～182 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.453 頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985 年 12 月.326 頁.

飯盛神社（西区飯盛）、文殊堂（西区飯盛）

859（諦観元）年に清和天皇は勅使和気清友を使わし飯盛山上・中･下神宮の再建を命ぜられたとのことで、これが飯盛神社の創建となっている。また、飯盛神社は鎌倉時代の狩り装束に身を包んだ射手が馬上から弓矢で的を射抜くという流鏑馬（やぶさめ）奉納の行事が有名である。流鏑馬は五穀豊穣（ごこくほうじょう）を願うもので、1838（天保 9）年から続く伝統行事で、市無形文化財に指定されている。

飯盛神社から左手の方にある小道を行くと文殊堂がある。その脇には「知恵」の水汲み場がある。ここに祭られている本尊は日本三大文殊堂として信仰がある。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 340 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.458～459 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.443 頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.458～459 頁．627 頁.

宝満宮（早良区重留）

709（和銅 2）年 8 月に富永修理太夫照房が建立したとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 225 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.251 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月. 420 頁.

志々岐神社（早良区内野）、志々木[志式]社（早良区小戸）

内野にある志々木神社は 930（天慶 3）年に肥前国の松浦より迎えた松浦姫などが祭られているとのことである。また、志々木（志式）社は姪浜の丸隈山北面にもあり、さらに小田部には松浦殿の墓があったとされており、松浦党の影響が大きかったことを意味してい

る。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.241 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.434 頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 3344 頁.

西島弘編著『姪の浜を中心とした郷土史誌』野村六郎発行,1992 年 6 月.　130 頁.

熊野神社[三社宮:中山]（早良区大字西）

1260（文応元）年の秋に脇山村より分霊して祭ったとの事である。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 334～335 頁.

池田大日堂（早良区脇山）

大日堂に奉納されているものは室町時代の仏像で、全身が金色で総高 1.305 メートル、像高 0.808 メートルの寄せ木造りとのことである。1992（平成 4）年に福岡市の有形文化財（彫刻）に指定されている。仏像の頭から体部を一材で造る大胆･素朴で古風な構造と技法は、この作者が地元の仏師であることを伺わせるとのことである。堂の前に 1999 年 3 月によって設置された板にこのような説明がなされている。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.237～238 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.427 頁.

西日本文化協会編纂「近代史料編　福岡県地理全誌（六）」『福岡県史』1995 年 3 月．28 頁.

亀井南冥・昭陽（西区姪浜、中央区地行）

亀井南冥（1743（寛保 3）～1814（文化 11）年）は 1784（天明 4）年福岡藩校の東学問所「修猷館」（朱子学）とともに開設された西学問所「甘棠館（かんとうかん）」の学長となった。その後、朱子学が尊ばれるようになり、1792（寛政 4）年に甘棠館をやめさせられ、また甘棠館も火災になり廃校となったとのことである。南冥の長男である昭陽（1773（安永 2）～1836（天保 7）年は父親南冥とともに私塾百道（ももち）社を作って門弟の育成をおこなっていたとのことである。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．510 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．361～362 頁.

葉室豊吉（西区愛宕山）

愛宕山の北側の登り口から愛宕神社駐車場の手前の脇に鍾道神社（大山祇神社）の祠がある。その祠の裏にあたる西側に姪浜炭鉱の創業者であった葉室豊吉の顕彰碑がある。葉室豊吉は 1854（安政元）年に生まれて炭鉱経営をおこなっていたが、1930（昭和 5）年に 77 歳で亡くなっている。姪浜炭鉱は 1962（昭和 37）年閉山、姪浜炭鉱を所有していた早良鉱業所の施設で現在も残っているのが早良病院および姪浜自動車教習所などである。

柳猛直『福岡歴史探訪　西区編』海鳥社,1995 年 6 月．151～157 頁.

福岡市役所編纂『福岡市史　第二巻大正編』福岡市役所発行,1963 年 10 月.733～743 頁.

宮崎安貞（1623（元和 9）～1697（元禄 10）年）

宮崎安貞は江戸前期の農学者で、1623 年に安芸国広島藩士であった宮崎儀右門の次男として生まれた。25 歳の時、福岡藩主黒田忠之に山林奉行として仕えたが、若くしてその職を辞して福岡藩を離れ、九州・山陽・近畿といった諸国を巡り農事研究を積み重ねた。現在の福岡市西区女原に帰り、郷土の農業改善や農民生活の向上などに貢献している。わが国初の農書である『農業全書』（全 10 巻）を 1696（元禄 9）年に刊行している。その翌年の 1697 年に 75 歳で亡くなったとのことである。

宮崎安貞『農業全書　巻一～巻五』農山漁村文化協会,2001 年 5 月.

宮崎安貞『農業全書　巻六～巻十』（含：貝原楽軒・益軒の巻十一「附録」）農山漁村文化協会,1998 年 3 月.

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．1688 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．1221 頁.

柳猛直『福岡歴史探訪　西区編』海鳥社,1995 年 6 月．135～139 頁.
井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987 年 11 月．272～273 頁.

伊佐治八郎（1847（弘化 4）～1907（明治 40）年）

伊佐治八郎（いさ　じはちろう）は弘化 4 年に小田部の農家の長男として生まれた。この伊佐家の先祖は安楽平城主の家臣の一人であり、落城後小田部に住みつき、代々農業を営んできた。治八郎は篤農家でありながらも横井時敬の指導を受けて新しい農法を身につけた。治八郎は山形県酒田の本間家から招かれ乾田化と馬耕とを用いる筑前農法を指導している。その農法を酒田の篤農家である阿部亀治によって、冷害に強い稲穂を見つけ、それを品種改良して「亀の尾」という明治三大品種（他に「神力」と「愛国」）の一つを開発している。

大西伍一『改訂増補　日本老農伝』農山漁村文化協会,1985 年 12 月.643 頁.
柳猛直『福岡歴史探訪　早良区編』海鳥社,1995 年 6 月．85～91 頁.

林遠里（1831（天保 2）～1906（明治 39）年）

林遠里（はやし　えんり）は明治三大老農の一人で、早良郡鳥飼村生まれの旧福岡藩士である。祖父は林掃部直利（はやし　かもんなおとし：黒田二十五騎の一人）である。遠里は 1865（慶応元）年に鉄砲術の指導者となったが、廃藩によって 40 歳のとき早良郡重留に移り稲作の研究をおこなっている。とくに種籾（たねもみ）の貯蔵「土囲法」と予措（よそ）「寒水浸法」を陰陽論を用いて説いた『勧農新書』を 1877（明治 10）年に刊行している。私塾である「勧農社」を 1883（明治 16）年に設立し、「筑前農法」あるいは「西南農法」の普及と無床犂（むしょうすき）である「抱持立犂（かかえもつたてすき）」の操作を指導する馬耕教師の養成をおこない、社員として全国に派遣している。遠里自らも各地を講演旅行し、1889（明治 22）年にはドイツのハンブルグで開かれた共進会の日本代表として渡欧し、フランス、イタリア、アメリカを回って 1890（明治 23）年 3 月に帰国している。遠里農法は政府要人の支持を得て隆盛を得たとのことであるが、1887 年以降（明治 20 年代）に横井時敬との稲作論争に敗れ衰退していったとのことである。この時代の農法は磯野や深見という梵鐘などを鋳造していた博多の鋳造所の技術が新しい農具を製作したことと大いに関係があるものと思われる。

林遠里「勧農新書」『明治農書全集　第一巻』農山漁村文化協会,1983 年 8 月.17～58 頁.
大西伍一『改訂増補　日本老農伝』農山漁村文化協会,1985 年 12 月.547～582 頁.

西日本文化協会編纂「近代史料編　林遠里・勧農社」『福岡県史』福岡県,1992 年 3 月.
新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．1394 頁.
三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．1011 頁.
井上精三『博多郷土史事典』葦書房,1987 年 11 月．222 頁.
柳猛直『福岡歴史探訪　早良区編』海鳥社,1995 年 6 月．74～84 頁.

横井時敬（1860（万延元）～1927（昭和 2）年）

横井時敬（よこい　ときよし）は肥後（現在の熊本）生まれで、明治･大正期の農業指導者である。時敬は駒場農学校（現東京大学農学部）を卒業し、福岡農業校教諭となり、その後福岡県勧業試験場長を経て、1900（明治 33）年に東京帝国大学教授となった。さらに、その後東京農業大学の初代学長となった。時敬は種籾の「塩水撰法（えんすいせんほう）」を開発した。

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．1819 頁.
三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改定新版』三省堂,1999 年 10 月．1315 頁.
横井時敬「重要作物　塩水撰法」『明治農書全集　第一巻』農山漁村文化協会,1983 年 8 月.59～98 頁.

万正寺（西区姪の浜）

1715（正徳 5）年に万正寺と改められたが、この寺は渋川探題の菩提所という密接な関係があり、探題塚と隣接している。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 516 頁.
加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.452 頁.
青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.191～192 頁.

興徳寺（西区姪の浜）

臨済宗の寺で、九州探題北条時定が 1260（文応元）年に創建している。開山は大応国師で、中国からの帰途 3 年間住職となっているとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 513～515 頁.

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.450～451 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.188～190 頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985 年 12 月.324 頁.

福岡市西区役所監修『福岡史跡ガイド　西区は歴史の博物館』海鳥社,1995 年 10 月.116 頁.

正覚寺（城南区東油山）、海神社（城南区東油山）

油山観音正覚寺（東油山）は清賀上人（せいがしょうにん）が開山したとされている。寺宝に国指定重要文化財の木造聖観音坐像がある。境内には鎮西国師の指導跡、十六羅漢、放生池およびひばり観音などがある。毎年 1 月 15 日に小豆を混ぜた粥を供え農産物の出来具合や、風水害を占う「粥開き」がおこなわれているとのことである。この行事は、正覚寺境内の南側の石段を登った所にある海神社とともにおこなわれているとのことである。

歌手美空ひばりとの関係で、ひばり観音がつくられている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 47～48 頁,51～53 頁.

浄覚寺（早良区重留）

僧官山の開祖で 1519（永正 16）年に創立されたとされている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 228 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.252 頁.

妙福寺（早良区重留）

土生了善の開祖で、日向の国から来ているとのことである。1661（万治 4）年 4 月に寺号木仏を許されているとのことである。土生姓は安楽平城との関連が深い。また、妙福寺の庭園は金屑川の自然の流れを取り入れ、白の石が敷きつめられており、とくに月夜の庭園が素晴らしいとのことである。1978（昭和 53）年から市指定文化財となっている。さら

に、本堂入口には仙涯和尚直筆の「妙福寺」が掲げてある。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 226～228 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.420～421 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.251 頁.

真正寺（早良区重留）

長沼宗道の開祖とのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 228 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.421 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.252 頁.

西光寺（早良区内野）

西光寺の梵鐘を参照のこと。

万徳寺（早良区脇山）

1468（応仁 2）年に高田平左衛門信房入道道雪の開祖とのことである。また、吉永正治氏によれば、万徳寺は小田部氏の菩提寺であるとの記述があるが、それが定かであるかどうかは不明である。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 278～280 頁.

吉永正治『筑前戦国史』葦書房,1997 年 6 月．135 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.427 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.237 頁.

真教寺（早良区飯場）

1511（永正 8）年寺田正玄の開祖とされている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 340 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.407 頁.

飛石の址（早良区早良口）

藤崎金屑川には、江戸時代架橋することを禁じられていたので、数十個の切石をならべその上を往来していた址である。

福岡県早良郡役所『早良群志』名著出版,1973 年 2 月.後編 616 頁.

松尾大膳碑（早良区次郎丸）

松尾大膳については二つの説がある。一つは肥後の浪人であり、仇討ち逃れて早良に来、次郎丸に住み瓜を栽培していたが、仇敵に発見され非業の死を遂げたという説。もう一つは安楽平城主小田部氏の遺臣（前代から仕えている家来）で、落城後次郎丸に来て住みつき瓜を栽培していたが、何者かに襲われて非業の死を遂げたという説である。『早良群志』には大正時代にこの地に「白瓜」の生産額が大きいとの記述があるが、これは松尾大膳の指導が伝承されたものと言われている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 179～180 頁.

柳猛直『福岡歴史探訪　早良区編』海鳥社,1995 年 11 月．53～54 頁.

石津司『安楽平城物語　その 1』1～4 頁.

岩窟弁才天（西区愛宕）

愛宕山の北の麓の海辺に天然の岩窟蓋（がんくつげた）があり、そこに弁才天の石像を安置されているとのことであるが、現在は周辺の埋め立てによって海辺ではなく、公民館の傍にある。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.449 頁.

奥村玉蘭著／田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版,1985 年 12 月.323 頁.

探題墓（西区姪の浜）

室町幕府が九州統制のために置いた九州探題は、応永年間の 1396～1424 年の間、代々渋川氏が務めており、現在の福安神社にある探題墓は渋川堯顕（しぶかわ　たかあき）の墓所である。

貝原益軒編／伊東尾四郎校訂『増補　筑前國續風土記』文献出版,2001 年 6 月.193～194 頁.

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.450 頁.

旦過だるま堂（西区姪の浜）

興徳寺を訪れた僧を宿泊させてもてなした所を旦過だるま堂といっている。そこには禅宗の開祖である達磨大師が祭られているとのことである。

中隈山[砲台跡]（西区小戸)）

1895（慶應元）年、尊皇攘夷の頃、福岡と小戸浜とに外冦防衛のために砲台を築いていた所。小戸公園内の山頂の西側に、幕末において外国の侵入に備えた砲台が築かれていたとのことである。現在は博多湾が一望できる展望台になっている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 522 頁.

長者屋敷（早良区重留）

重留の地の豪族であった富永修理太夫の邸宅とのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 232 頁.

主基斎田（早良区脇山）

1928（昭和 3）年 11 月昭和天皇即位の大礼がおこなわれるにあたり大嘗祭（だいじょうさい）の悠紀殿（ゆうきでん）および主基殿（すきでん）に神穀を献上する田の選定で、東から滋賀県（悠紀田）および西から福岡県（主基田）がそれぞれ選ばれた。主基斎田は早良郡脇山村の石津新一郎所有の 1 ヘクタールで、種籾（たねもみ）は横井時敬が開発し、西南農法の技術であった塩水選で選ばれたものであった。米 450 キログラムの収穫米は 1929（昭和 4）年 10 月 17 日に 12 個の白木の唐櫃（からびつ）に入れ、筑肥線西新駅から

新造列車で京都に輸送されたとのことである。現在の早良区野田にある野田公民館の傍に「主基斎田勅使の碑」がある。

幡掛正木監修／伊東壽編纂『福岡縣神社廳誌』福岡縣神社廳,1955 年 5 月.67～69 頁.

柳猛直『福岡歴史探訪　早良区編』海鳥社,1995 年 11 月．103～115 頁.

西光寺の梵鐘（早良区内野）

西光寺（真宗）にある梵鐘はわが国で 4 番目に古い国宝（1954（昭和 29）年に指定）の梵鐘で、平安時代前期の 839（承和 6）年に製作されたものである。この梵鐘は現在の島根県（伯耆（ほうき）の国）の金石寺（廃寺）の梵鐘として製作され、その後出雲の多福寺（衰退後）から松江の金物屋に売られ、1889（明治 22）年大阪へ、西光寺 12 世住職（深沢慧眼師）がこの中古の梵鐘を購入し、第 2 次世界大戦時代の供出から逃れ現在に至っているとのことである。

また、西光寺には大杉栄（1885～1923 年：アナーキスト）と妻の伊藤野枝(1895～1923 年：婦人運動家)、大杉の甥で 6 歳であった橘宗一の墓石があったとのことである。

青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺　下巻』文献出版,1993 年 6 月.241 頁.

柳猛直『福岡歴史探訪　早良区編』海鳥社,1995 年 11 月．98～107 頁.

加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録　中巻』文献出版,1977 年 12 月.434 頁.

西日本文化協会編纂「近代史料編　福岡県地理全誌（六）」『福岡県史』1995 年 3 月．33 頁.

新潮社辞典編集部『新潮日本人名辞典』新潮社,1995 年 5 月．128 頁,229 頁.

三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典　改訂新版』三省堂,1999 年 10 月．180 頁,332 頁.

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 118 頁,230 頁,338 頁.

白水養禎宅跡（早良区内野）

白水養禎（1780（安永 9）～1849（嘉永）2 年）は、天保年間に福岡藩の財政立て直しに貢献した早良郡内野村に住む藩医（眼科）であった。大量の銀札を発行し物資の流通を促し、観光街をつくり諸国の人を呼び寄せ金を落とさせるという景気浮上策であったが、インフレーションが生じ成果はあがらなかった。それに加えて、1836（天保 7）年の梅雨は連日の大雨で農作物は凶作となったことがその策が成果を得なかったことに通じるとの

ことであった。そのため、養禎は内野に閑居した後、玄海島に流刑となり、またその後内野に戻り、1849 年に 69 歳で亡くなったとのことである。

柳猛直『福岡歴史探訪　早良区編』海鳥社,1995 年 11 月．69～73 頁.

多々羅瀬（早良区大字石釜）

石釜と西との境に流れる川の瀬において、荒平戦争の時武士が太刀を洗ったので太刀洗い瀬といっていたのを、後になって多々羅瀬と言われるようになったとのことである。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 343 頁.

五輪の塔（早良区曲淵）

曲淵小学校に五輪の塔がある。伝説には肥後の国より小國孫右衛門という者が落来、この地で死したが、後年その孫娘が尼となって来て菩提のため、五輪の塔を建て千部の経を納めたといわれている。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版,1973 年 2 月.後編 343～344 頁.

柳猛直『福岡歴史探訪　早良区編』海鳥社,1995 年 11 月．29 頁.

六波羅探題跡[六波羅蜜寺]（京都市東山区）

中世の早良郡には、鎮西探題、渋川探題および九州探題などと、その時代に応じた探題があった。わが国における探題の起こりは京都の六波羅探題である。六波羅探題は鎌倉幕府が京に置いた政務機関である。1221（承久 3）年の「承久の変」の祭に、北条泰時・時房が京へ攻め上がり六波羅で政務を執行したのが六波羅探題の始まりとのことである。その重要な職務は「西日本諸国の裁判」、「畿内の警備」および「朝廷との折衝」である。六波羅探題は六波羅蜜寺を中心に、北側に「探題北方」を、南側に「探題南方」をそれぞれ置いている。1333 年（北朝：正慶 2 年、南朝：元弘 3 年）に後醍醐天皇に味方した足利尊氏に攻められて探題は滅びたとのことである。六波羅蜜寺は大乗仏教を普及させており、その教えはより多くの人を救えるとして、その教えを大きな乗り物に例えており、出家僧のみでなく、在家信者も救われるということである。また現在の洛東中学校の正門から入った直のところに「平氏六波羅第・鎌倉幕府六波羅探題跡」の石標があるが、洛東中学校は蜜寺から約 100 メートルの所である。

早良逍遥マップに掲載の史蹟名勝現在の写真

菅公腰掛石（室見）

飛石の址（早良口）

岩窟弁財天（愛宕）

愛宕神社（愛宕）

愛宕神社（ケーブルカー跡）：九州探題、鎮西探題

葉室豊吉碑（愛宕山）

亀井南冥生誕の地

探題墓（姪浜）

姪浜宿の住吉神社（姪浜）

旦過だるま堂

興徳寺（姪浜）

丸隈山：探題出城址（小戸）

丸隈山登り口

元寇防塁跡（小戸）

安楽平城址１（本丸跡）

安楽平城址２（本丸跡）

荒平城主自刃の地（登山口近く）

安楽平神社境内の小田部親子の墓

安楽平神社境内の小田部親子の墓

村下古墳群跡（重留）

拝塚古墳（重留）

宝満神社（重留）

林　遠里の墓（重留）

勧農社跡：　林遠里（重留）

重留の正覚寺跡

浄覚寺（重留）

妙福寺（重留）

妙福寺庭園

真正寺（重留）

茶臼城址：城山（重留）

茶臼城址の石塁

菟道岳城址からの景色（東入部）

荒平城の武家屋敷跡

三瀬街道飯場宿の真教寺（飯場）

曲淵五重石塔

曲淵城址１

曲淵城址２（曲淵神社）

橋本神社（橋本）

都地城主の碑（金武）

都地城址（金武小学校）

西念寺（田村）

飯盛神社（飯盛）

文殊堂（飯盛）

本城城址（早良）

本城城址傍にある古墳（早良）

西光寺の梵鐘(内野)

白水養禎宅跡（内野）

志々岐神社（内野）

馬立山（内野）

主基斎田碑（脇山）

栄西禅師の茶碑（脇山）

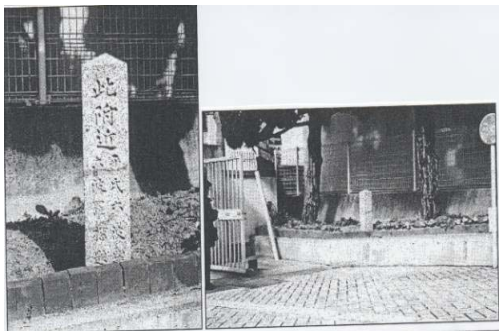
万徳寺（脇山）

池田大日堂

大教坊の墓（池田）

池田城の見張台跡

池田城址



六波羅探題府址

おわりに

前回の『早良逍遥マップ記』の作成には伝承および文献などで得た情報を通じて、早良に存在していた史蹟名勝を逍遥し、その確認のために人々への聞き取りをおこなっています。しかしながら、その史蹟名勝等を知る人は時代を重ねるごとに少なくなり、知っている人でさえ記憶も薄らいでいるように思われます。今回の『続　早良逍遥マップ記』では早良の人々にとっても記憶が新しい旧筑肥線および西鉄路面電車などの鉄道について記述しています。とくに旧筑肥線および西鉄路面電車の隆盛は高度経済成長期であり、その跡を逍遥することによって、その当時の記憶を呼び起こすことに繋がるものと思われます。現在の超少子高齢化時代において、とくに 1960 年代にあった鉄道が高度経済成長期に果たした役割を知ることによって、今後のわれわれが果たさねばならないことを教えてくれるものと信じます。

本書が地域の人々の関心を得、地域社会にさまざまな形で寄与することを期待いたします。

油山を眺めつつ早良区重留の自宅より

〔著者紹介〕

内山　敏典（うちやま　としのり）

現在,九州産業大学経済学部教授

専攻：統計学,計量経済学

担当科目：統計学とゼミナール科目（学部）,統計学特講と演習（大学院修士課程）,計量経済学特殊研究（大学院博士後期課程）

経済学修士

博士（農学）

主要著書

『アンケート調査に基づく専門教育科目の授業効果分析』（共著）九州大学出版会,1989年.

『消費需要の計量的分析―食肉消費を事例として―』（単著）晃洋書房,1992 年.

『間接税改革の国際比較』共著）九州大学出版会,1993 年.

『統計解析技法』（単著）晃洋書房,1995 年.

『消費構造の変容とその統計的分析』（共著）晃洋書房,1995 年.

『余暇関連財需要の計量的分析』（単著）晃洋書房,1998 年.

『増補　統計解析技法』（単著）晃洋書房,1998 年.

『計量分析のための統計解析技法』（単著）晃洋書房,2002 年.

『看護統計テクニック―基本からパス分析まで―』（監修）医歯薬出版,2003 年.

『早良逍遥マップ記』（単著）城島印刷,2003 年.

『トピックス　統計解析技法―電卓,Excel および VBA における計算法―』（単著）晃洋書房,2004 年.

など

続　早良逍遥マップ記―鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ―

2005年　1　月　15　日　　発行　初版

著　者　内　山　敏　典
印刷所　城島印刷有限会社
非売品
〒811－1101　　福岡市早良区重留3丁目4番3号